

セレッソ大阪スポーツクラブと連携研究協定を締結

# Contents

## 02 Topics

- ・セレッソ大阪スポーツクラブと連携研究協定を締結
- ・FM ひらかた『枚方教育ステーション』に本学学生が出演

## 02 平成 27 年度 大阪歯科大学卒業式

03 理事長・学長 式辞 理事長・学長 川添 堯彬

04 祝辞 同窓会会長 生駒 等

05 学位・博士(歯学)授与報告

## 05 平成 27 年度 専門学校卒業式

06 平成 28 年度 大学入試合格発表

06 第 109 回 歯科医師国家試験結果

## 06 平成 27 年度 定年退職者

- ・口腔外科学第二講座 寛道 健治
- ・体育学教室 長家 秀博

## 09 教授就任

- ・歯科医学教育開発室 西川 哲成

## 11 国際交流

- ・【学生短期海外研修】コロンビア大学歯学部
- ・【学生短期海外研修】キングスカレッジロンドン歯学部

## 11 行事報告

### ▶大学

- ・平成 27 年度 人権講演会
- ・第 23 回 大阪歯科大学公開講座(枚方講座)  
「近未来の歯科治療 デジタルデンティストリー」

### ▶附属病院

- ・第 11 回 指導歯科医講習会

・平成 27 年度 歯科医師臨床研修 第 4 回 指導歯科医に  
対する講習会 第 1 回目

・平成 27 年度 歯科医師臨床研修全体会議

・平成 27 年度 医薬品講習会

・第 13 回 病診連携講演会・懇談会

・平成 27 年度 医療安全講習会「個人情報保護法について」

・平成 27 年度 歯科医師臨床研修 研修歯科医症例報告会

・平成 28 年度 歯科医師臨床研修 情報交換会

・平成 27 年度 歯科医師臨床研修 研修歯科医 修了証授与式

・平成 28 年度 歯科医師臨床研修 協力型臨床研修施設に  
よる施設紹介・面談会

## 14 平成 28 年 新年互礼会

14 年頭所感 学長・理事長 川添 堯彬

23 平成 28 年度 事業計画

27 平成 28 年度 大阪歯科大学学術研究奨励助成金(大学院生)

27 寄贈

28 人事

28 あとがき



## = Topics =

### ◆セレッソ大阪スポーツクラブと連携研究協定を締結

平成 28 年 2 月 26 日（金）、本学は一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブと連携研究協定を締結しました。連携研究協定の目的は、スポーツと歯科学の関係性を具体的なデータに基づき研究し、口腔環境の整備を通じて世界基準のトップアスリートを育てることを目指すというもの。

締結式には、セレッソ大阪スポーツクラブ 代表理事 宮本功様、大阪サッカークラブ株式会社 代表取締役社長 玉田稔様のほか、本学からは、川添理事長・学長、覚道附属病院長、山本歯科保存学講座主任教授、同講座の吉川准教授が出席しました。

この協定を締結したことにより、本学はセレッソ大阪スポーツクラブに所属する選手の口腔内の状態を口腔内検診や咬合能力などで把握するとともに、セレッソ大阪スポーツクラブの記



録している各選手のフィジカルパフォーマンスと照らし合わせることで、口腔の状態とスポーツパフォーマンスの関連を明らかにすることが期待されています。また、スポーツと歯科学の関係性を具体的なデータに基づき研究し、プレー中のパフォーマンス向上を目指し、世界基準のトップアスリートを育てることも目標に掲げています。

今回の協定締結については、産経新聞(2016年5月20日付け)に掲載されるなど、注目を集めています。



### ◆FM ひらかた『枚方教育ステーション』に本学学生が出演

本学の学生、穴田理嵯さんと西村遵也さん（ともに 4 年生）が、FM ひらかたの番組『枚方教育ステーション』に出演しました（番組収録は平成 28 年 1 月 22 日、放送は同年 1 月 26 日）。

トークテーマは、『大阪歯科大学の魅力、お伝えします!』。

本学の長所である歴史や、彼らが学んでいる授業内容、部活動などのキャンパスライフを中心に、学生の生の声をリスナーのみなさんにお届けしました。

なかでも、彼ら自身が体験した国際交流（穴田さんは上海交通大学とシドニー大学、西村さんは南方医科大学の研修にそれぞれ参加）について話す際は、現地の学生と一緒に学んだことや、附属病院の見学、一般開業医への訪問などを通じ、現地の生の歯科医療事情を肌で感じることの充実感が垣間見え、その雰囲気はリスナーの方々にも伝わったことでしょう。

二人とも、ラジオ出演は初めてということもあり、最初は緊張している様子でしたが、リハーサルでは DJ やスタッフの方が冗談でリラックスさせてくれたこともあり、本番では楽しみながら収録に臨みました。



## 平成 27 年度 大阪歯科大学卒業式

平成 27 年度 大阪歯科大学卒業式並びに大学院学位認証式が、平成 28 年 3 月 11 日（金）に執り行われました。川添堯彬 理事長・学長から、第 64 回大学卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されるとともに、第 52 回大学院修了者にはそれぞれの指導教授から博士（歯学）の学位記が授与されました。卒業は各々の目標への通過点。これからそれぞれの道を歩み出す卒業生に、理事長・学長よりお祝いと激励の言葉が贈られました。式典の終了後には、恩師や友人、後輩たちと記念写真を撮る、胴上げされるなど、晴れやかな表情とともに、とても和やかな旅立ちとなりました。



## 理事長・学長 式辞

理事長・学長 川添 堯彬



奈良時代から実に 1200 年もの間、営々とつづく、東大寺二月堂のお水取りの行事は、今月 1 日から始まり 3 月 5 日の啓蟄を過ぎてもおこなっており、来週の 14 日の月曜日にいよいよ満行日の修仁会を迎えます。周辺の梅林も今、満開で、春の到来がすぐそこに感じられるこの頃でございます。

本日、まさにこの春の近い記念すべき日に、第 64 回大阪歯科大学卒業式を迎えられます 73 名の新歯学士諸君並びに第 52 回大学院学位認証式を迎えられる 19 名の新博士の皆さん、本日は誠にありがとうございます。同時に、本席にご臨席いただきました保護者・ご家族の皆様におかれましても、ひとしおの感慨に胸を膨らませておられることと拝察いたします。

さて、新歯学士の皆さんに申したいと思います。皆さんはまもなく国家試験に見事に合格されて歯科医師になれるわけですが、これからさらに国で決

められた 1 年間の臨床研修で研鑽する義務があります。その後は大学院博士課程への進学や、社会人歯科医師として、各分野に分かれて活躍していただくこととなります。それぞれに使命感ややりがいを見つけてくれるものと思います。

本日ここに卒業式を迎えられた新歯学士の皆さんは、6 学年の最終課程を精一杯勉学に励み、目覚しい成果を挙げられた精鋭揃いの方々であることをよく知っています。

そのような方々へ、これからの人生に立ち向かう心がまえについて、明治維新の立て役者となる多くの若者を育成された吉田松陰先生の教え「士規七則」の中からまず第一の目標として三つの言葉を贈りたいと思います。

一つ目、志しを立てることを万事の原点とすること。

二つ目、良き友を選んで行動や考え方の助けとすること。

三つ目、読書によって故人、賢人の教えを学ぶこと。

第二の目標は、できるだけこれからは海外諸国に目を向けてほしいことであります。それは自己啓発にもなりますし、また視野の拡大にもつながります。あるいは将来の私たちの活躍の場もグローバル世界に見い出せるかもしれません。

そして第三の目標は、従来よりもっと患者さんに喜んでもらえるような歯科医療を探索し、実行してほしいのであります。患者さんに限らず、できるだけ多く

の人々から「ありがとう」という言葉をたくさん言ってもらえる、そんな歯科医師になってほしいと思います。

次に、めでたく大学院を修了された新博士の皆さんへ申したいと思います。歯学部を卒業後、さらに上級のコースへ進まれ、勉学意欲、研究意欲に燃えて、ここまでの苦労や努力に耐えてこられ、このたび見事に「博士」の学位を授与されました。このご苦労の成果を、皆さんのこれからの各自の職業人生や、あるいは研究人生においてさらに磨いていただき、各分野の歯科界のトップランナーになっていただきたく、存分に活躍していただくことを祈念します。

そしてさらに期待したいことは、皆さん方は恵まれて、また幾多の努力を経てここまで進んでこられた、まさに国の宝となるエリート人材であります。できましたらお一人でも多くの方が大学に帰ってきていただき、大阪歯科大学の教員人材の要の柱になっていただきたい思いでございます。そして将来、いつの日か、「博愛」と「公益」という究極の目標へ一歩でも近づいてほしいのであります。大学の力を一段と高めていただきたいと願っております。

以上、新歯学士と新歯学博士の皆さんへの理事長・学長式辞といたします。



## 祝辞

同窓会会長 生駒 等



平成 27 年度・大阪歯科大学卒業式並びに大学院学位認証式にあたり、9,000 余名の同窓会会員を代表してお祝いを申し上げます。

6 年間の学業を終えられ、めでたく卒業の日を迎えられました、新しい歯学士の皆様、そして長年の大学院での研究を終えられ博士（歯学）の認証を得られた皆様方の努力に対して心から敬意を表しお祝いを申し上げます。

また、本日の晴れの日を一日千秋の思いでまちわび、本人在学中に時には温かく、そして時には厳しいご支援をなさいましたご家族の皆様方に深甚なる敬意を表するとともに、心からお喜びを申し上げます。

卒業生の皆さんが、校門でご父兄の皆様や友人と、校庭で友人やクラブの後輩と共に語り、写真をとる姿を拝見して満ち溢れた達成感と開放感を感ぜずにはおれませんでした。今、この時に今日まで支えていただいたご両親や家族の皆様

に感謝の気持ちを伝えてください。皆さんは本学において 6 年間歯科医学の最新の専門教育をうけ、各分野について広範囲に知識と技能を習得してこられました。そして最後の評価として国の制度である歯科医師国家試験に挑戦中ではありますが、必ずやこの難関を突破されることを願っているところです。

同窓会ではありますが、全国同窓会は大阪歯科大学を卒業した先輩方の大集団であります。母校を支え、母校愛に誇りを持ってきた連帯であります。全国広くに支部会があり先輩・後輩の親睦・交流のみならず地域活動での一助になると確信しております。積極的に参加して歯科医師としての自分作りに役立ててください。皆さんは大学 64 回卒業生として 4 月から同窓会に自動的に入会されます。同級生同士として今日まで切磋琢磨し、励ましあってこられました。これからも、生涯同じ価値観をもつ同士としての友情を保つことが 64 回・クラスの絆であると思います。

「清澄 雲に映る緑 輝け我が丘 正に道あり」と北原白秋作詞、山田耕筰作曲の学歌を斉唱するだけで、瞬時に学生時代に帰ることができます。詩人白秋に「風のあと」と題する詩があります。

夕日はなやかに、こほろぎ啼く。

あはれ、ひと日、木の葉ちらし、吹き荒みたる風も落ちて。

夕日はなやかに、こほろぎ啼く。

前後の「夕日はなやかに、こほろぎ啼

く」は、私たちの人生の平穏な日々を表しています。家族や自分が健康でもめ事もなく、経済的に何不自由ない生活、その状態が長く続くことを誰もが願います。

しかし、長い人生の中で時には、厳しい逆境や試練に遭遇したとき、私たちはそれを良いことの何倍も強く感じとってしまうものですが、どのような激しい嵐もやがては過ぎ去り、再び「夕日はなやかに、こほろぎ啼く」日々がやって来るとうたっています。

私たちの人生には平穏な時もあれば、大変な時もありますが、それは物事に陰陽があるのと同じで極めて自然なことです。世の中は、五十悪いことがあれば、必ず五十良いことがありバランスがとれています。この二つがあつてこそ、人生は光輝くのです。感性を高め何事にも挑戦する勇気で、これからの歯科界を勝ち抜いてください。

最後になりましたが、大学院を卒業された皆さんは長年の研究を通していろいろな体験やご苦労があったと思います。研究成果とともに貴重な経験を得られたと思います。今後はその成果を自信として幅広く自己育成、魅力ある先輩として教室発展に尽力して下さるよう期待をいたします。皆さんの将来にご多幸と栄光がありますように祈念して、お祝いの言葉といたします。



## || 学位・博士（歯学）授与報告

梅崎 泰之 甲第 768 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Human Gingival Integration-Free iPSCs; a Source for MSC-Like Cells (ヒト歯肉由来インテグレーションフリー iPSC 細胞; MSC 様細胞ソースのための利用)

西五辻 理江 甲第 769 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Gene expression profile of side population cells in human oral cancer cell line SCC-4 (ヒト口腔がん細胞株 SCC-4 における side population 細胞の性状解析)

増田 貴行 甲第 770 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Fabrication of all-ceramic crowns by a new method (新製法によるオールセラミッククラウン)

津守 紀昌 甲第 771 号 平成 28 年 3 月 11 日  
VEGF Expression in Diabetic Rats Promotes Alveolar Bone Resorption by Porphyromonas gingivalis LPS (糖尿病ラットにおける VEGF 発現は Porphyromonas gingivalis LPS による歯槽骨破壊を促進する)

松下 浩子 甲第 772 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Histopathological study of experimental tooth movement in a rat model of type II diabetes mellitus (II 型糖尿病モデルラットにおける実験的歯の移動に関する病理組織学的研究)

寺内 理恵 甲第 773 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Effect of difference in occlusal contact area of mandibular free-end edentulous area implants on periodontal mechanosensitive threshold of adjacent premolars (下顎遊離端欠損部インプラントの咬合接触面積の違いが隣在小白歯の歯根膜触・圧覚閾値に与える影響について)

海田 浩治 甲第 774 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Application of Green Tea Catechin for Inducing the Osteogenic Differentiation of Human Dedifferentiated Fat Cells In Vitro (ヒト脱分化脂肪細胞の骨芽細胞分化誘導にむけた in vitro での緑茶カテキンの応用)

大城 庸嘉 甲第 775 号 平成 28 年 3 月 23 日  
Analysis of MRI findings in minimum invasive treatment for habitual temporomandibular joint dislocation by autologous blood injection around the temporomandibular joint capsule (習慣性顎関節脱臼に対する顎関節部への自己血注入による低侵襲療法の MRI 所見の解析)

柏木 隆宏 甲第 776 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Accelerated generation of human induced pluripotent stem cells from human oral mucosa using episomal plasmid vectors and maternal transcription factor Glis1 (エピソームプラスミドベクターと母性転写因子 Glis1 を用いたヒト口腔粘膜からのヒト人工多能性幹細胞樹立の加速化)

香川 真貴子 甲第 777 号 平成 28 年 3 月 11 日  
The Effect of Phenytoin on the Matrix Metalloproteinase-3 Production in HGFs (ヒト歯肉線維芽細胞における Matrix metalloproteinase-3 産生に及ぼすフェニトインの影響)

苏(蘇) 英敏 甲第 778 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Nanostructured Ti6Al4V alloy fabricated using modified alkali-heat treatment : Characterization and cell adhesion (アルカリ加熱処理を施したナノ構造制御 Ti6Al4V 合金:特性評価と細胞接着)

廣田 陽平 甲第 779 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Study on Dental Hard Tissue Ablation by Er : YAG Laser- Evaluation on Tip Wear - (Er : YAG レーザー照射法に関する研究 ―チップ損耗性についての検討―)

中田 雅代 甲第 780 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Comparison of EEG analysis systems during lidocaine-induced seizure activity and administration of valproic acid in rabbits (リドカイン誘発痙攣とバルプロ酸投与における脳波解析システムの比較)

矢谷 真也 甲第 781 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Effect of platelet-rich plasma on proliferation of human synovial cells (ヒト滑膜細胞の増殖に及ぼす多血小板血漿の影響)

三宅 晃子 甲第 782 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Adsorption of Saliva Related Protein on Denture Materials An X-ray Photoelectron Spectroscopy and Quartz Crystal Microbalance Study (義歯材料への唾液関連タンパク質の吸着 XPS と QCM による研究)

小石 玲子 甲第 783 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Behavior of Human Gingival Epithelial Cells on Titanium Following Abrasion of the Adjunctive Glycine Air Polishing Powder (グリシン含有歯面研磨剤噴射後の純チタン上のヒト歯肉上皮細胞の挙動について)

徳田 知子 甲第 784 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Comparison of the Bone Forming Ability of Different Sized-alpha Tricalcium Phosphate Granules using a Critical Size Defect Model of the Mouse Calvaria (マウス頭蓋冠臨界骨欠損モデルを用いた粒径の異なる  $\alpha$  型第三リン酸カルシウム顆粒の骨形成能の比較)

李 佩祺 甲第 785 号 平成 28 年 3 月 11 日  
The Effect of Interferon-  $\gamma$  and Zoledronate Treatment on Alpha-Tricalcium Phosphate/Collagen Sponge-Mediated Bone-Tissue Engineering (  $\alpha$  リン酸三カルシウムコラーゲンスポンジを用いた骨再生に対するインターフェロン  $\gamma$  とゾレドロンートの効果)

粟田 麻祐子 甲第 786 号 平成 28 年 3 月 11 日  
Improvement of Photocatalytic Activity of TiO<sub>2</sub> Coating by the Modified Sol-gel Method (改良ゾルゲル法による TiO<sub>2</sub> コーティングの光触媒活性の向上)

中澤 悠里 甲第 787 号 平成 28 年 3 月 11 日  
The Value of Maltitol Containing Cookie as a Food for the Elderly (高齢者向け食品としてのマルチトール含有クッキーの有用性)

## || 平成 27 年度 専門学校卒業式

平成 28 年 3 月 15 日 (火)、歯科技工士ならびに歯科衛生士専門学校の卒業式が行われました。

当日は多くの来賓にご出席いただき、歯科技工士学科から 10 名、歯科技工士専攻科から 4 名、歯科衛生士学科から 45 名が大阪歯科大学から歯科医療の世界へと新たな一歩を踏み出しました。

それぞれの校長から一人ひとりに卒業証書が手渡され、ご父兄への敬意とお祝いのことば、また卒業生のひたむきでたゆまない努力に対して敬意が示されました。

校長告辞では、末瀬一彦校長から、自らの志、熱い情熱と大きな夢を胸に入学した生徒の皆さんが、基礎科目や臨床実習で戸惑いや苦しさを乗り越えて大きく成長されたことが述べられました。卒業証書が苦しみと喜び、汗と涙が織り成す努力の結晶として尊いものであること、皆さんの努力に敬意を表し、心

から大きな拍手を送りたいというメッセージがありました。最後に、70年の寿命をもつ鷹が40年を経た時点で死を選ぶか苦しい自分探しの旅に出るか重大な決心をする「鷹の選択」の話の紹介があり、人生の価値が「速さ」と「広さ」にあるのではなく、「方向性」と「深さ」にあることを伝えられ、皆様のご活躍を祈念されました。

小出武校長からは、歯科医療での貢献が大きく、高齢社会においてますます重要な役割を果たす歯科衛生士として、患者さんに寄り添ういたわりのこころを持ち、患者さんの最高の笑顔を引き出すことができるように努力することの大切さが述べられました。

また、今後、挫折や失敗、悔しさがあっても、友達や先生に囲まれて苦労したこと、楽しかったこと、戴帽式で誓ったことばを思い出し、乗り越えてほしいというメッセージが送られました。最後に、明治の代表的な女性実業家として名を馳せた広岡浅子さんの「小我に固執せず、真我を見つけなさい（自分が

## || 平成 28 年度 大学入試合格発表

平成 28 年度入学試験では、昨年度導入した「入学試験成績優秀者特待生制度」の拡充や、一般入学試験（前期日程）で福岡会場を新たに開設するなど、引き続き入試変更を行いました。なお、入試結果は以下の通りです。本学を志望される皆さんのために、来年度もさらなる入試変更を加えていきます。

	前期		後期		合計
	一般入試	センター利用	一般入試	センター利用	
志願者数	229名	74名	65名	16名	384名
受験者数	206名	73名	61名	16名	356名
入学者数	63名	3名	23名	0名	89名
	※ 推薦入学者を含めて 128 名				



したいことだけに固執せず、社会のために為すべきことを見つけなさい」という言葉が紹介され、卒業生の皆さんが健康で活躍し、悔いのない幸せな人生を送られることが祈念されました。

すべての教員と在校生が見守るなか、在校生からの送辞や卒業生による答辞もあり、あたたかな空気が流れる式でした。

## || 第 109 回 歯科医師国家試験結果

平成 28 年 1 月 30 日（土）・31 日（日）の 2 日間にわたり実施された第 109 回歯科医師国家試験結果が 3 月 18 日（金）に発表されました。本学学生・既卒者の合格状況は、下表のとおりです。

	新卒者	既卒者	合計
受験者数	73名	87名	160名
合格者数	57名	54名	111名
合格率	78.1%	62.1%	69.4%
(全国平均)	72.9%	47.4%	63.6%

## 平成 27 年度 定年退職者

口腔外科学第二講座 主任教授 覚道 健治  
 体育学教室 教授 長家 秀博  
 歯科技工士専門学校 教員 鈴木 寛  
 教務学生課楠葉担当 事務職員 原 美津恵

下記の皆様が平成 28 年 3 月 31 日をもって定年退職されました。定年を迎えるにあたり、2 名の方からお寄せいただいたご挨拶文を掲載いたします。

中央歯学研究所 課長補佐 堀 英明  
 大阪歯科学会事務局 主任 中司 裕子  
 附属病院 歯科技工士 齋藤 俊文  
 附属病院 歯科技工士 武森 政文

### 長い間ありがとうございました。

#### 口腔外科学第二講座 覚道 健治

本年 3 月 31 日をもって、大阪歯科大学を定年退職となりました。振り返りますと、1968 年、昭和 43 年に大阪歯科大学に入学し、48 年が過ぎました。約半世紀を大阪歯科大学とともに歩んできたこととなります。学生時代から歯科補綴学

に興味があり、病院生時代には、岡山大学名誉教授の山下敦先生と、本学理事長・学長の川添堯彬先生に、調節性咬合器を使った臨床咬合学の手ほどきを初歩の初歩から教えていただいたことが思い出されます。このことが、その後の私の顎関節研究と臨床の大きな糧（かて）となりました。1974 年、昭和 49 年に 253 名の同窓とともに卒業し、あんなに憧れ

ていた補綴ではなくて、父の勧めもあり、高須淳教授の主宰する口腔外科学第一講座に同級生 7 人と共に入局いたしました。その後、白数力也先生が教授となられた第一講座時代には、顎関節研究チームの責任者をまかされ、当時大学院生だった多くの先生方とともに顎関節症の病態生理に関する研究に従事することができました。その一部は第 49 回日

本口腔科学会総会・学術大会で宿題報告として発表する栄誉を与えられました。1997年、平成9年3月31日に本学附属病院が新築開院し、その年の10月1日に私は口腔外科学第一講座から第二講座に主任教授として移籍いたしました。それからは今日まであつという間の19年間でした。本学の新しい箱モノと共に歩んだ教授生活でもありました。主任教授として就任した時、ぜひ実現させたいと思ったことが5つありました。

まず第1は、大阪歯科大学口腔外科学第二講座を中核とした均質な医療・研究集団の醸成でした。すでに先行して多くの関連病院を持たれていた大阪大学が大きな目標となり、本学でも関連病院部長会を組織し、人事交流を行うとともに、お互いに切磋琢磨するきっかけを作りました。まだまだ追いついてはいませんが、距離を少しは縮めることができたのではないかと考えております。

第2は、グローバルな視点を持つ口腔外科医の育成でした。私自身は、海外留学の経験がありません。大学院を修了した後、海外留学をしたくて密かにツテを頼って計画し、引受先を探すのにずいぶん苦労いたしました。相手先からOKの手紙がやっと出たと思ったら、突然ボス（故 高須淳教授）が口腔診断学講座に転籍され、計画はあえなく頓挫する羽目になりました。インターネットがある今日の時代とは違って、手紙の遣り取りですぐ2～3か月が経つ時代でしたから、あれよ、あれよという間に、後任の白数力也教授の時代となり、35歳で講師に登用していただくとともに臨床に、研究に、教育にと猛烈に忙しくなり、さらに子供も就学年齢になり、とうとう留学の時期を失ってしまいました。そんなわけで、私の海外への憧れは昇華され、講座員にはそんな思いを抱かせずに、しかも臨床で留学ができる相手先をなんとか確保できるようにすることが私の使命と思うようになりました。幸い、私の海外視察を通じて Bern 大学医学部頭蓋顎顔面外科の Tateyuki Iizuka 教授および King's College London、GKT 歯学部口腔顎顔面外科の Mark McGurk 教授のお二人とは、非常に親しくさせていただきました。

ことができ、特に、McGurk 教授とはなぜかウマがあい、お互い「Mark」「Kenji」とファーストネームで呼び合え、家族ぐるみの交際にまで発展するほどに親しくさせていただきました。この両校には5人の講座員の留学を引き受けていただくことができました。おかげで本学では海外留学生の多い講座の一つとなりました。さらに大学院生の4年次の発表は必ず国際学会で発表を義務付けたことにより、グローバルな視点をもつ口腔外科医の育成の責を果たせたのではないかと考えております。

第3は、新しい治療手技、システムの導入です。「咀嚼筋腱・腱膜過形成症」の疾患概念が新たに提唱され、その外科的治療法が、試行錯誤で本学が先導的に確立させていったことは、素晴らしいことで、少しは口腔外科界に貢献できたと思っております。

第4は、恩師の故 高須淳教授から与えられ、ライフワークになっていった顎関節研究の大阪歯科大学からの発信でした。私の顎関節研究については、教授に就任したころやっと全国区として認められつつありました。これをさらに発展させ、国民の健康に寄与できるようにしたいと思つたことでした。幸い、日本顎関節学会の理事長に選ばれたおかげで、1) 日本顎関節学会を法人化させたこと、2) 顎関節症専門医制度を発足させたこと、3) 顎関節症の病態分類がガラパゴス化せず欧米の分類と整合性をとれるように大幅な改訂ができたこと、4) 韓国および中国との交流からアジア顎関節学会を設立できたこと、5) 新しい疾患概念である「咀嚼筋腱・腱膜過形成症」のシンポジウム開催とポジションペーパー作成ができたことなど、多くの全国の顎関節研究の同志のご協力のおかげでなんとか形に仕上げることができました。惜しむらくは広告標榜のできる専門医許可願を厚生労働省に申請した際、日本耳鼻咽喉科学会の反対にあい、歯科顎関節症専門医の名称が、厚生労働省で塩漬けになったままであることです。粘り強くこれからも交渉していかねばなりません、この件は次代の方々にお頼り願うしかありません。



第5は、学生教育のための教科書の上梓でした。同時期に教授となった愛知学院大学の栗田賢一教授と鶴見大学歯科放射線科の小林馨教授の3人の編集で永末書店から、「SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療」を就任二年目の1998年に初版を上梓することができました。以後版を重ね、第4版が本年3月に出版されました。

また、臨床研修制度が必修化すると、チェアサイドですぐに検索して確認でき、しかも歯科全科にわたって記載されているビジュアルな書籍が求められるようになりました。大阪大学歯学部歯科補綴学の前田芳信教授の協力を得て、研修歯科医の教育のための書籍である「歯科臨床研修マニュアル 起こりうる問題点と解決法」を2002年1月に上梓（第2版を2012年に上梓）することができました。この2冊の上梓は、学生教育から卒後研修に至るまでの教育書籍を、一貫したコンセプトで世に問うことができ、幸い好評でした。叔父の故覚道幸男名誉教授が書かれた「歯と口腔の臨床生理」のような名著には及びませんが、歯学教育に少しは寄与できたと思っております。

そして、教授生活の締めくくりは、最後の8年間に、川添理事長・学長のお計らいで、法人理事、病院長を拝命し、大学・病院運営に参画させていただいたことです。管理職としての課題は、院外処方箋の導入、MRI装置の更新、フィルムレス化と画像配信システムの導入、土曜日診療の開始、電子カルテシステム

の本格導入、などなど難題が続き、資金面の確保と病院関係者の意思統一が必要で、決断に迷うことばかりでした。しかし、いつも理事長・学長の川添先生にご相談申し上げると、丁寧に私の説明をお聞きになり、「よし、それで行きなさい」と、躊躇している私の肩を後ろから押してくださいました。このお一言が私の病院業務を執行する際の大きな心の支えとなっておりました。本当にありがとうございました。

総括してまいりますと、思い出はこのほかにもまだまだ山のようにあり、反省だらけですが、大きな事故もなく今日まで職務を全うできたことは、幸せだったと思っております。私の好きな言葉に「今が旬!」「真心」があります。時は止まらず流れていき、動きがあります。二十代には二十代の、三十代には三十代の、そして六十代には六十代の旬があります。その時代その時代を輝くように精一杯生きることが大切だと自分に戒めております。さらに「旬」を生きる時、どのような人に対しても「真心」を持って接することを忘れないようにしたいと思っております。

48年間の大学生活をともに歩み・支えていただいた多くの方々に感謝申し上げます、御礼の言葉と致します。ありがとうございました。

なお、今回川添理事長・学長の特別のお計らいによって、4月1日からも、附属病院口腔外科で臨床教授として顎関節症を中心とした臨床に従事させていただくこととなりましたことを申し添えます。今後ともよろしく願い申し上げます。

## 定年退職のご挨拶

体育学教室 長家 秀博

平成28年3月31日に定年退職をいたしました。昭和49年10月に体育館の竣工と同時に大阪歯科大学初の体育学教室の専任助手として任用され、多くの方々のご厚情に支えられ41年6ヶ月にわたり務めさせて頂くことができ、心より御礼申し上げます。

就任当時体育の実技は非常勤講師のみ



で行われており、授業内容は毎回出欠の点呼後、学生だけでソフトボールかバレーボールを行い教師による技術的な指導は行われていませんでした。その後大学や進学科の先生方のご理解とご協力により技術習得と体力増強を目的とした体育実技と、その基礎となる運動生理学やスポーツ医学の講義を開講することが出来ました。また数年後には、1年生では受験勉強で低下した基礎体力の増進と歯科医師に必要な体力の養成を目的とした実技（Ⅰ）を行い、4年生では生涯スポーツの基礎となる技術の習得を目的とした実技（Ⅱ）を行うようになりました。講義では健康とスポーツの関係、トレーニング理論、スポーツ障害と危険性について理解させ、クラブ活動等への運動処方についても指導を行いました。

学友会関係では体育会が発足し就任以来今日まで何らかの形で関わってきました。全日本歯科学生総合体育大会の時には毎年1週間ほどかけて体育会本部の学生と一緒に各クラブの応援と監督に行っていました。歯学体で初の総合優勝をした時には学生と共に涙を流して喜び、2連覇した時には優勝トロフィーになみなみと注がれたビールを壇上で飲み干した事など、多くの思い出を作ることが出来ました。

退職後は長年の酷使により変形した膝や身体のケアとリハビリを行い、大好きなスポーツが出来るようになりたいと思っております。

皆様のご健勝と大阪歯科大学のさらなる発展を祈念いたしまして挨拶とさせて

頂きます。長年のご厚情に感謝いたします。

# 教授就任

就任された下記1名の先生のご略歴とご挨拶を掲載いたします。

歯科医学教育開発室 専任教授 西川 哲成 平成28年1月1日付



歯科医学教育開発室 専任教授

**西川 哲成** にしかわ てつなり

歯学博士 / 昭和26年4月7日生まれ

## <学歴>

1976年3月 大阪歯科大学卒業  
1976年5月 第59回歯科医師国家試験合格  
1980年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了  
歯学博士の学位を受領

## <職歴>

1980年4月 大阪歯科大学助手（口腔病理学講座）  
1989年4月 大阪歯科大学講師（口腔病理学講座）  
1996年4月 大阪歯科大学助教授（口腔病理学講座）  
1996年5月 オーストラリア シドニー大学歯学部客員研究員（口腔病理学）  
2007年4月 大阪歯科大学准教授（口腔病理学講座）

## 教授就任ご挨拶

歯科医学教育開発室 西川 哲成

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会のご承認をいただき、平成28年1月1日付けで大阪歯科大学歯科医学教育開発室専任教授を拝命いたしました。現在の歯科医学教育の厳しい環境を考えると、まさに身の引き締まる思いです。就任にあたり皆様への御挨拶とともに、研究と教育活動についての抱負を申し上げさせていただきます。

まず研究ですが、大学院博士課程からの研究テーマは口腔癌で、その所属リンパ節細胞の反応性、癌抑制遺伝子の変異について取り組んできました。そして、補綴前外科処置として顎骨の骨量の増加（増生）についてサンゴを足場材料として基礎実験を行ってまいりました。今後は臨床の研究者との共同研究でより実用的な骨増生の手法の確立を目指したいと考えています。さらに、教育の分野では国民が求める歯科医師をめざす学生にとっての効果的な授業方法、特にアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた態度教育を模

索したいと思っております。

次に、教育についての基本的な抱負ではありますが、大学は“夢を実現する場であると同時に夢を諦める場でもある”と思います。学生の夢は歯科医師になることであり、その夢を実現するための具体的な学習方法を明示し、サポートを行います。しかしながら、夢の実現が困難な場合、学生とともに人生を見直し、歯科医師以外の道もアドバイスしなければならないと思っております。将来、国家試験の合格者数は減少し、しかも国立大学も国家試験の対策に力を注ぎ始めたことで、大阪歯科大学の卒業生は年々厳しさを増すと予想されています。学生あるいはご父兄の立場からすると歯科医師になることは絶対条件であります。このことは大学の存在意義のためにも全学挙げて取り組まなければならない最優先課題であり、基礎講座、臨床講座全ての教員が学生の教育について率直に話し合うことが、学生教育の重要性を意識する良い機会であると思っております。

私は歯科医師になるという目標から現在の学生の学習能力を把握し、それぞれ有効な教育法があると考えていま

す。学生の学習能力から分けると、教科書の内容を理解し、自分自身でノートを作成できる、あるいは指示されれば教科書を読み、その内容が理解できる学生で、国家試験にも自力で合格できるグループです。次に、他の学生が作成したノート、あるいは配布プリントを用いて自力で進級できる学生で、“教科書から出題”等の大まかな指示だけでなく、具体的なアドバイスがあれば自力で国家試験に合格できるグループ。そして、四六時中の両親あるいは教員の生活態度からのサポートが必要な学生で、過去に留年経験が多く、サポートしてくれる友人も少ない傾向のあるグループ。それ以外に、身体的精神的疾患あるいは家庭や友人との人間関係などのトラブルによって、学習に集中できなくなる学生がいると分析します。これらの学生能力の分析から、学習能力のある学生に対しては講義と教科書を中心に学習させ、学年のチーム作りとサポートを依頼します。次に他人のサポートで進級してきた学生に対しては、講義の内容が理解できる授業になっているかが大切であり、重要な個所を具体的に説明し、時には教科

書からも学習を促し、友人や新卒業生（大学院生）からのサポートが有効だと思えます。一方、過去に留年を経験し教員や学生の日常的なフォローの必要な学生に対しては保護者や教員が絶えずサポートする必要があります。さらに、勉強をしないあるいは勉強しても CBT や国家試験の合格が困難な学生に対しては、オーダーメイドの指導が必要で、学生個人に合った合格までの戦略を与え、毎日の小範囲学習の積み重ねと教員による確認が有効です。同時に保護者の日常の生活指導への協力も依頼し、時には早い学年から進路の変更を社会的変化と本人の個性や能力からアドバイスすることも必要だと思えます。歯科医学教育開発室は、教員や学生の日常的なフォローが必要な学生に対して、全ての科目に対し、学習法のアドバイスができる状態で受け入れ、時には一緒に学習し、必要な場合は専門の教員を紹介する、いわゆる医療という家庭医的な存在と位置づけます。大阪歯科大学の国家試験合格率は教員や学生の日常的にフォローの必要な学生の教育が大きく関与すると思われれます。

4年生の CBT や 5、6年生の国家試験の学習では 1年生から 4年生までの講義の復習をする学生は少なく、即効性のある問題集を中心に行っているように見受けられます。1年から 4年までの講義や実習は非常に重要です。講義で使用した教科書や配布資料の内容が授業後も復習で利用され、卒業まで幾度も繰り返し活用できるように授業を学生目線から工夫する必要があります。そして、学生が科目試験まで、CBT まで、そして 5年生の臨床実習で確認してから国家試験までと、基本的知識や重要度が学生にわかるよう徹底することが望ましいと思えます。授業では学生にとって難しい内容を易しく、易しいことを楽しく、楽しいことをより興味を持ち、学生が工夫して将来実践できるようにする講義が理想と思っています。歯科医学教育開発室では 1年生での歯学概論 I、そして新しくスタートした現代教養で、知識教育

や態度教育に関し様々なアクティブ・ラーニングの手法を多く取り入れ、学生が楽しく興味を持って自ら問題解決できるような授業を試みます。そして、その効果と問題点を今後明らかにしていきたいと思っております。

学生が国家試験に合格し、国民に望まれる歯科医師になるには日頃の自覚と効率の良い勉強、それ以外にありません。実際に勉強し歯科医師になるのは学生自身です。このことは学生や教員の誰もが理解していることです。これからは教員の視線だけではなく、国民の視線から望まれる歯科医師を考え、学生が目線から学生生活を理解し、どうすれば CBT や OSCE そして臨床実習を経て国家試験に合格し、国民が望む歯科医師になれるか。そして、そのための教員、職員や学生同士の教育法を模索したいと思います。今まで行われてきた教育に関する FD あるいは教育学会からの研修や講習会からの内容をもう一度整理し、CBT、OSCE、そして国家試験のある歯科医学教育の特殊性や、大阪歯科大学独自のポリシーを鑑み、歯科医師になりたいと熱望する学生の心にヒットする教育法の開発に微力ながら尽力してまいります。学生の卒業資格のハードルはぎりぎりまで上げられています。1年からの 6年間を見通した系統的かつ効率的な教育、我々教員も職員も変わらなければなりません。

将来、日本の超高齢社会はさらに進み、その後には人口の減少が到来します。それにともなって、歯科の需要は減少すると予想されています。一方、世界の人口は増大し、特に東南アジアにおいては急激な人口増大と生活レベルの向上で、歯科の需要増大が予想されます。日本の歯科医療、特に知識・技能そして機材などでは世界のトップクラスにあります。すでに、日本から海外に進出している企業の社員は健康への不安があるため、海外での日本人歯科医師の要望は強く、早めの対応が求められています。今まで日本の国際化では主に欧米諸国に目が向けられていましたが、今後は周辺アジア諸国で

活躍できる教育も求められると考えます。歯科医学教育開発室は 2年生の歯学英语で海外でも活躍できるような指導を行います。また、リサーチマインドをもった歯科医師の育成も重要です。基礎科目や臨床科目を講義で学び、実習で経験するにあたって生じる素朴な疑問に対し、我々は学生が自ら解決する方法をアドバイスするとともに専門の先生方を紹介し、そして実験で証明するためのアイデアを話し合い、時には我々の経験から研究の楽しさを伝えていければと思っております。大阪歯科大学には世界をリードする歯科医師の養成も求められています。

これまでに大阪歯科大学で培った教育と研究の経験を生かし、今後も国民や学生が目線からの教育を考え、母校の学生教育と、歯科医療の発展に貢献できるように努めてまいります。皆様の叱咤、激励そしてご指導、改めてお願いいたします。

# 国際交流

## 学生短期海外研修 コロンビア大学歯学部 2016.03.12 ~ 22

学生 6 名 (5 年生) が口腔インプラント学講座・上村講師の引率で、コロンビア大学を研修訪問しました。

研修内容は、特別講義・臨床見学を主体としたプログラムで、本学学生も積極的にディスカッションに参加したことにより、海外の歯科事情に触れる貴重な経験となりました。また、本学の学生とコロンビア大学の学生達がウェルカムパーティーなどを通じて友情を深めました。

## 学生短期海外研修 キングスカレッジロンドン歯学部 2016.03.12 ~ 22

学生 4 名 (5 年生) が歯科医学教育開発室・益野准教授の引率で、キングスカレッジロンドンを研修訪問しました。今回、第 1 回目となるキングスカレッジロンドン研修は、特別講義・臨床見学を主体としたプログラムで、本学学生も積極的にディスカッションに参加したことにより、海外の歯科事情に触れる貴重な経験となりました。また、本学の学生とキングスカレッジロンドンの学生達がウェルカムパーティーなどを通じて友情を深めました。

## || 行事報告

### ▶ 大学

2/16 (火)  
16:00

### 大学行事 2015 年度 人権講演会

平成 28 年 2 月 16 日 (火) 午後 4 時から、2015 年度人権講演会が創立 100 周年記念館大講義室において開催され、人権教育室・李嘉永講師が「職場のハラスメント問題の動向」というテーマで講演されました。天満橋学舎では 5 年ぶりの開催となった本講演会には、本学人権啓発推進委員会委員長である川添理事長・学長をはじめ、教員、病院医員、大学院生、看護師、歯科衛生士、嘱託歯科医師、事務職員等 127 名が参加し、教育指導上留意したいポイントなど、日常業務にすぐに役立つお話の数々に熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。

講演後のアンケートでは「ハラスメント問題への理解が深まった」「今後は自身の言動に注意したい」との声や、より具体的な事例の提示、再度の講演を希望

する意見も寄せられるなど、出席者各人がハラスメント問題を自らに引き付けて考え、人権意識を高める有意義な講演会となりました。



### 取り組み 第 23 回大阪歯科大学公開講座 (枚方講座) 「近未来の歯科治療 デジタルデンティストリー」

昨年 9 月に創立 100 周年記念館で行われた天満橋講座に引き続き、枚方講座が楠葉学舎講堂にて開催されました。

[ 講座 1 ] デジタル化によって変わる歯科治療 - 快適な歯科治療と安全な装置の提供を目指して -  
2/20 (土) 大阪歯科大学 歯科審美学室 末瀬 一彦 教授

10:00

2 月 20 日は、末瀬一彦教授が、「デジタル化によって変わる歯科治療 - 快適な歯科治療と安全な装置の提供を目指して -」と題し、デジタル技術は歯科医療の現場でも驚く速さで進化しており、患者さんにより安全・安心な治療を提供できることや、一般的な歯科治療、インプラントや修復物の製作などに利用されている CAD/CAM システムなど、最新のデジタル歯科治療について丁寧に解説されました。



**[ 講座 2 ] デジタル化によって変わるエックス線診断と安全性・利便性**  
**2/27 (土) 大阪歯科大学 歯科放射線学講座 四井 資隆 講師**  
**10:00**

27日は、「デジタル化によって変わるエックス線診断と安全性・利便性」という難しいテーマでしたが、四井資隆講師が、「デジタル」とはなにか、また最新の歯科用撮影装置を用いた画像診断について、ユーモアを交えながら、非常にわかりやすくお話しされました。



ご参加いただいた皆様からは、知識の幅が広がった、講演を聴き安心して歯の治療に行ける、毎年参加できることを楽しみにしているなど、主催者にとって喜ばしいご感想をいただいております、大変有意義な講演会となりました。

(受講者からのご感想)

- ・最新の治療技術がよくわかりました。非常にわかりやすく、いい講義でした。
- ・治療の進歩に驚いている。講義を聞いて安心して歯の治療にいけることが理解できた。

**▶ 附属病院**

**1/10 (日) 附属病院 第11回 指導歯科医講習会**

**1/11 (月・祝) 【主催者等】**

- (1) 主催者 学校法人 大阪歯科大学 理事長・学長 川添 堯彬  
(2) 共催者 一般財団法人 歯科医療振興財団 理事長 川添 堯彬

講習会主催責任者の川添堯彬理事長・学長はじめ本学教職員スタッフ20名が、「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」(平成16年6月17日付け医政発第0617001号)に則った内容で標記講習会を開催した。本学教員及び一般応募者の24名が受講し、全員が所定のプログラムを修了し、修了証書が授与された。



**1/21 (木) 附属病院 平成27年度 歯科医師臨床研修第4回 指導歯科医に対する講習会**  
**17:15 第1回目**

講師：欠損歯列補綴咬合学講座 岡崎 定司 主任教授

講習内容：「歯科訪問診療における義歯治療の要点」

受講者：当院指導歯科医等82名、協力型施設指導歯科医20名

厚生労働省 指導歯科医資質向上推進事業で「歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成22年度改訂版」により、高齢化への対応、医科と歯科の連携を図るといった観点から改訂された卒前教育の内容を指導歯科医に周知するための講習会である。

講習会要件で2時間以上と規定されていて、今回は第1回目である。当院及び協力型施設の指導歯科医が、熱心に受講した。

**1/21 (木) 附属病院 平成27年度 歯科医師臨床研修全体会議**

**18:30**

【テーマ】「協力型臨床研修施設に対する群内マッチング等説明会」

覚道健治病院長より、ご挨拶と歯科医師臨床研修に対するご理解・ご協力、研修指導に対して謝辞が述べられました。

各責任者より、研修指導についてのお願い、管理型研修時間の変更、研修歯科医のアンケート調査報告、補助金分配、スケジュール案内、歯科医師臨床研修制度の見直し等の説明が行われました。



2/2 (火)

16:15

### 附属病院 平成 27 年度 医薬品講習会

演題：「新病院システム（電子カルテ）導入後の医薬品処方オーダー入力に関して  
- 問題点とその対策について - 医薬品の適正使用に関するお知らせ」

2/4 (木)

16:15

講師：上中 清隆 薬剤師長（医薬品安全管理責任者）

出席者数：教職員 100 名（平成 28 年 2 月 2 日）、教職員 131 名（平成 28 年 2 月 4 日）

上中清隆薬剤師長より新病院システム（電子カルテ）の医薬品処方オーダーの登録・修正・変更入力の注意点について講義をしていただき、旧システムから改良された点をわかりやすく説明された。

また、医薬品を適正に使用するために、子どもによ

る医薬品誤飲事故に関する事例の周知を呼びかけられた。高齢者の患者に対しては多剤投与の場合は有害事象が増加するため、減薬手法や疾病・病態によらず高齢者への使用を避けることが望ましい薬剤を紹介していただいた。

2/13 (土)

15:30

### 附属病院 第 13 回 病診連携講演会・懇談会

平成 27 年 1 年間の患者紹介医療機関：2561 施設

施設の出席者数：講演会 62 名、懇親会 30 名

覚道健治病院長が日頃のご協力への謝辞を交えたご挨拶をし、病診連携講演会が開催された。当院における初診（紹介、非紹介）、再診患者の流れや総合受付等の役割説明および院内診療科や専門外来が紹介された。そして、補綴咬合治療科（欠損歯列）岡崎定司科長が「顎口腔の欠損ならびに機能障害における義歯によるリハビリテーション」のテーマで講演を行った。顎口腔の硬・軟組織が欠損した場合の義歯は顔貌・表情の回復、咀嚼・発音・嚥下等のストレス緩和など役割は大きい。ただ、義歯による機能回復は当然限界もあるため、患者様と十分なコミュニケーションを図り、必要なリハビリテーションの説明を行うことが重要であることが述べられた。参加者からは難症例等の質疑もあり、活発に意見が飛び交った。

その後、本館 14 階プラザフォーティーンにて、懇談会を開催し交流を深め、情報交換する機会となった。



2/25 (木)

16:20

### 附属病院 平成 27 年度 医療安全講習会「個人情報保護法について」

講師：佐久間 泰司 医療安全管理室室長

個人情報保護法について、Q&A、事例等をもとに解説、説明があった。

医療人として意識を新たにし、今後は教職員のみならず

学生も含め一層の教育、研修をする必要があると感じさせられた講習会であった。

3/17 (木)

10:00

### 附属病院 平成 27 年度 歯科医師臨床研修 研修歯科医症例報告会

覚道健治病院長の挨拶後、臨床研修症例報告をプログラム S（単独型）とプログラム C（複合型）の 13 科が行った。

各科副プログラム責任者等の座長による紹介のもと、演者の研修歯科医が 7 分間で発表した。審査員の先生方からの指摘や質問に窮する場面もあったが、科長や座長より補足説明等を受ける等し、生涯研修の必要を体感できた報告会となった。

審査の結果、修了証授与式で病院長賞（1 科）、優秀賞（2 科）の表彰を行った。

病院長賞：補綴咬合治療科（欠損歯列）「新規義歯製作法により総義歯製作を行った一例」

優秀賞：口腔外科第 2 科「抜歯の偶発症 上顎洞穿孔に対する検討」

優秀賞：補綴咬合治療科（有歯）「下顎左側第一大臼歯を CAD/CAM 用 ハイブリッド型レジンクラウンによって補綴した症例」

3/23 (水)  
16:50

### 附属病院 平成 28 年度 歯科医師臨床研修 情報交換会

主催：大阪歯科大学 学生部

出席者：大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム C (複合型) の研修予定者 84 名

現研修歯科医 56 名

田中昌博学生部長、覚道健治病院長の挨拶後、現研修歯科医と研修予定者とが臨床研修について情報交換し、直接情報が入手でき、アドバイスも受けることが

できることから好評であった。また、今回は現役研修歯科医、研修予定者とも多数の出席があり、盛況であった。

3/25 (金)  
16:50

### 附属病院 平成 27 年度 歯科医師臨床研修 研修歯科医 修了証授与式

修了者：研修歯科医 88 名

川添堯彬理事長・学長から祝辞をいただき、覚道健治病院長から研修歯科医に修了証が授与された。

研修歯科医代表挨拶は、プログラム C 補綴咬合治療科 (欠損) 武田智香子研修歯科医が行った。

研修歯科医優秀者として、プログラム S 臨床研修教育科 早川知佳研修歯科医、プログラム C 補綴咬合治療科 (欠損) 篠原憲吾研修歯科医の 2 名が、トクヤ

マデンタル賞として表彰され表彰状と副賞が贈呈された。

また、研修歯科医症例報告会の病院長賞 (補綴咬合治療科 (欠損))、優秀賞 (口腔外科第 2 科、補綴咬合治療科 (有歯)) の表彰も行われた。

3/27 (日)  
9:15

### 附属病院 平成 28 年度 歯科医師臨床研修 協力型臨床研修施設による施設紹介・面談会

協力型臨床研修施設数：面談ブース 28、プレゼンテーション施設 28

研修予定者 84 名出席

病院長 覚道健治臨床研修総括責任者の挨拶後、研修予定者はブースで施設長等と面談したり、施設紹介

プレゼンテーション (5 分間) を視聴する等して、研修する協力型施設決定のための参考となった。

## 平成 28 年 新年互礼会

平成 28 年 1 月 5 (火) 午前 11 時より平成 28 年新年互礼会が楠葉学舎講堂で開催されました。

教職員をはじめ関係者多数が出席し、川添理事長・学長による年頭所感に耳を傾けました。川添理事長・学長は、本学のこれまでの実績と今後の方針について、スライドで示しながら述べるとともに、大学のますますの発展・社会貢献にむけての具体的な方策をお話しされました。その後、食堂での交歓会では、それぞれ新年の挨拶を交わし、一年の始まりを祝いました。

### 年頭所感

理事長・学長 川添堯彬

皆様方、新年明けまして誠におめでとうございます。加えて、本学のこの新年互礼会に、わざわざ万障繰り合わせて、また、遠路はるばるよりご出席賜りましたこと、誠にありがたく存じ、心からうれしく存じております。

歯科大を取り巻く状況は厳しい状況が続いていると言われていますが、私たちは、多くの難問に突き当たりましても、一つ一つこれらを克服していかなければなりません。私は、教職員みんなが力を合わせて、その持ち分で努力をしていたら、必ずや打開できるものと希望

を持っています。

昨日の 1 月 4 日には、通常国会が新年早々開会されまして、その開会式の中で、安倍首相は、今年の抱負として二つを挙げておられます。「挑戦の 1 年」というのが一つ、もう一つは、「一億総活躍」のこの二つでございます。どちらも新聞紙上でそれまでおなじみのキーワードとして心しておりました言葉でありましたが、私は、まさしくこれが力強く感じました。

私は、抱負ということで、一字を今年のこの新年に当たって選ぶとすれば、希望の年という「希」というのを選びたいと思います。いろいろな本学における難問は、大学改革全体とすれば、まだ道半

ばの感じもありますけれども、それをよくご覧になっていただければ、今までに努力していただいた分が、そこかしこに芽が出て実現されているのがおわかりになるとと思います。

もう一つ、私は、去年いろいろ東京や省庁のところへ行っている中で、大学は今までは教育研究機関であるという定義であったと思いますけれども、少なくとも私立大学は教育機関である、特にこういった終生の資格、ライセンスを取るような医学部とか歯学部などでは、まさしく大学は教育機関であるという認識を持つことによって、随分とその活躍・活動内容が変わってくるのではないかと。私自身がやはり教育機関ということで目覚

めますと、例えば附属病院におきまして、今まさに文科省で調べた1日の来院患者数をどんどんこれから増やしなさいと。厚生労働省は、これは6年間の臨床実習、あるいは臨床教育の充実度を示す1日の延べ患者数が、それによって計られるというものであります。定員問題が今、需給問題に絡めて厚生労働省で検討されていて、この3月までに結論が出ますけれども、その中でも、やはり臨床教育、患者に当たる教育の一環として、附属病院の人は、臨床実習は臨床だと、場合によっては研究科だと思っていたのが、やはりこれぞ教育であると定義して、文科省も厚生労働省もこれをもって計ると。

今、現状はといいますと、最も日本で多い大学を100%としますと、一番患者数の少ない大学附属病院は、ちょっと実名は控えますけれども、その10分の1、10倍の格差があると言われております。それにもかかわらず入学定員が同じだけあるというのは矛盾ではなかろうかというのが、これから、おそらくこの1月からどんどん我々に攻めてくるに違いないということで、私は、次に、この附属病院の改革の中で患者数をともかく増やそう。これが非常に喫緊の問題として、大学のランクづけ、さらに入学定員を128名より減らされる一つの指標にされかねない、はっきり言って、されたいと思いますけれども、そういう形で、本学は5分の1というか、そういう程度、一番多いところが100%としますと、うちは20%の中にいるというところがありますから、まだだいぶ努力しないと128名の定員が守れない。そういう形が教育の面から附属病院にメス入れられるという時代に今年はなろうかと思えます。



それでは、あとは、貴重な時間でございますので、繰り返し、重複になっては申し訳ございませんので、しばしばほどの時間で聞いていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

昨年は  
 平成27年 きのと ひつじ 乙羊歳

**達成結果:**

- 国試成績は2年連続全国平均を超えました。
- 留年率の改善へあと一歩、さらに努力が必要です。
- 新入生直後の学力は向上、しかし1,2年の授業欠席者が増えてきました。
- ODUソーシャルコミュニティが正式に実施されました。
- 5年生(病院生)時の学力低下が顕著です。
- 既卒組の国試合格率向上が大課題となっています。

昨年は、平成27年、乙未(きのとひつじ)の年でございました。まだ記憶に新しいところでございます。

そこで、教学の点で、我が大学の達成目標を立てた分の達成結果をここに挙げました。なかでも、国家試験の成績が2年連続全国平均を超えたこと。これは非常に大きく、それによって上位から数えたほうが早いという成績になるわけです。今年、もうまもなくまた次の国家試験が始まりますが、それを入れ、連続で全国平均を超えるということになりますと、国家試験の合格率に関しましては、とやかく言われる筋合いはないということで胸を張れるのではないかと思います。

それから、志願者、募集ブランド力とも呼びますが、入試結果の倍率が2倍を超えなければ、競争の原理が働いていないと見られるわけで、本学は、今、1.8、1.9、ずっと低迷してまいりました。これは最終の募集定員ですけれども、それがようやく2.95で、もうあと一息で3倍という倍率になりました。今年もこれを超えてくれるのではないかと大いに期待しております。後で文科省の成績表が出てきますが、ちょっと困ったのは、留年率がまだだいぶ残っておるので、できるだけ各学年2%以内におさめないといけない。ということで、今、教務部委員会、教授会でそれを目標にしております。

そして、去年の4月に入った新入生は、今までと比べてずっと学力が向上して、これはすごいなということで、上級生からも一目置かれたのでありますけれ

ども、この1年生の半ばを過ぎますと、少しずつ勉強習慣、学習習慣が衰えてきてまして、ともかく授業の欠席者が非常に多いということになってきました。これは、いろんな理由があるんですけども、入試の成績がいい人でもここで揺るぎ始めます。そして、後の国家試験合格率まで尾を引く、影響が及ぶため、やっぱり1年生あるいは2年生のときの授業態度、欠席数とか成績が、3年生、4年生、5年生を越えて、6年生を越えて卒業時まで続くようでありますので、これは、今年中にこのすぐに緩んでしまうのを何としてでも欠席させないように頑張らないといけません。

それから、ソーシャルコミュニティというのは態度教育の一環ですが、これは『Science, Art & Heart』のHeartといういたわりの心、思いやりの心を育てる一つとして、もう学生部で実施していただいて完全実施にこぎつけました。周囲の方からもお礼の言葉とか励ましの電話をいただくようになりました。

また、割合成績のいいクラスでも、5年生の病院生のときに学力が非常に落ちてしまう、そして暇でしようがない、患者もあんまり当たらないのかどうか、とにかくここで遊んでしまう傾向がちょっと本学にあります。そのため、6年生になってからの成績が落ちて、国家試験にも即影響します。5年生、6年生で猛勉強しないと、今の国家試験は受かりません。ですから、これは猛烈に、病院時代の座学、知識教育も叩き込まないといけない。そして、そのための試験ももっとどんどんやらないとと考えております。進級試験というのがあるのですが、どうも生ぬるいと思えて、ほとんど通ってしまっていますが、成績は悪いのが実状です。

それから、既卒組の合格者の傾向ですが、ちょっと成績が悪いというのが大きな問題になっておりまして、いくら現役がよくても、既卒組の合格率がなかなか上がらないので、総合成績としてはガンと下がってしまいます。そして、新卒の大学は、割合若い浪人生、既卒組が多いから、割合だんだんと通っていくんですけども、本学は、もう10年選手、15年選手とかいうのがいますので、そ

ういう人はもう勉強のレベルが全然違いますので、どうしても受けてしまうと通らない。そして、足を引っ張ることになります。

ちょっと長くなりましたが、そういう状況でございました。



今年  
平成28年 **丙申歳**

丙(ひのえ): 「字義は炳(あきらか、さかん)の意」  
「活性化する。生物は萌え、躍動する。」  
「世の中活気が出て、人も活発に動く」

・虚栄・散漫を自重し、積極的に伸ばす

申(さる): 「字義は稲妻が走るの意」  
「奇才・発想の象徴」  
「性格は機転が利いて、世話好き」

・呼号宣伝の傾向もある

これから申年に移るわけでありませう。平成28年、2016年は、申の年ですね。これを暦の上で少し運氣・運勢を占ってみますと、平成28年、丙申(ひのえさる)というのは、意外に丙(ひのえ)は非常によい運勢がたくさんあると見えて、これは、学問にしる何にしる、仕事にしる、「あきらか」「さかん」であり、積極的という時期があるようでございませう。したがって、運勢も活性化するし、動物も躍動してくる、世の中の活気が出てきて人も活発に動く、積極的の代名詞のような丙(ひのえ)でございませう。しかし、ややそれが油断して、虚栄とか散漫となってしまうと、ウサギと亀のこと

わざのように、ちょっと落とし穴になるので、そういうのを自重して積極的に伸ばせば非常によい年格好であると言われております。

それから、申(さる)ですけど、これは、素早い動きで稲妻が走るという時期であります。奇才・発想の象徴であって、性格は機転がきいて世話好きです。ただ、呼号宣伝の傾向もあるという、あんまりよい意味ではないのですが、少しおっちょこちょいというか、ちょっとオーバーにPRし過ぎて、後が尻すばみになったりすることもあるようなことが運勢には出ております。

3.

私立歯科大学は  
どんな使命を担っているか。

〈私立歯科大学の使命〉

- 1) 「建学の精神」, 「教育方針」
- 2) 「教育研究目標」, 「3ポリシー」
- 3) 「厚労省が求める事項」
- 4) 「文科省が求める事項」

それでは、私立歯科大学はどんな使命を担っているかということです。以前は私立大学としては、建学の精神と教育方針、これに沿ってやっていたら何ら言われることはなかったんですが、最近では文科省が、教育研究目標とか三つのポリシーとか、こういうものを設定しなさいというのを非常にうるさく言うてくるもんですから、それに合わせる程度合わせないといけません。しかし、その中で一番大切なのは、建学の精神と教育方針であります。それに、今回、今年、この厚労省が求める事項がだいたいガンと表に出てきました。

本学の建学の精神は、明治44年12月12日に掲げました博愛公益のために努力するという、非常に患者目線という

か、国民目線に立ったものですので、極めて今の時代にもぴったりしてくる精神であります。

1a) 建学の精神

学校経営事業は営利に非ず  
博愛公益のために努力する  
ものなること  
創立者 藤原市太郎  
明治四十四年十二月十二日

つい12月19日の新聞を見ておきますと、マザー・テレサがバチカンの法王から「聖人」という最高位の称号をもらえるということでした。この方は87歳で亡くなったんですけども、もうとくにノーベル賞を20年前にもらっているという方で、博愛の象徴のような方で、主にインドへ行っていて、ひどい状態の子供を、全く消毒液もつけずに、洗って、タオルで拭くように、直に手袋をはめないで、体をこすって大勢の子供を助けたということでも有名です。宗教とか国とかを問わず、そういった博愛の精神を施したことで有名で、一つ下の位には「福者」、その「福者」の上の最高の「聖人」という位に叙せられる、バチカンのローマ法王からもらうことになったということですから、その式は今年の9月になるようですけれども、非常に偉大な人です。

1b) 教育方針

『Science, Art & Heart』

(専門知識, 医療技術  
& 労りの心・思いやりの心)

= 患者参加型, スチューデントドクタ, 訪問診療

本学の教育方針も、これはオープンキャンパスでも常時使わせてもらってますけれども、非常にこれも私は素晴らしい方針だと思っております。私立大学であるからこそ、こういうことができる。Scienceは最先端の専門知識をつける、Artは最新の医療技術を教えるということで、「Science & Art」と言います。それにもう一つ、「& Heart」というのが、この黄色で書いてある「いたわりの心」「思いやりの心」です。これはあんまり今まで言われなかったのですが、歯科医の医療人として、やはり早く臨床に出して、早く患者さんに当たって、この「いたわりの心」がなかったら、いつかは患者さんから見放されるし、これでは職業の尊さありません。

ところが、遅まきながら、文科省が、患者参加型や診療参加型臨床実習など、臨床研修を、6年の終わりに実施しなさいと言い出しました。医学部では今年からスチューデントドクターというのが制度化します。歯学部も、それに続いて、数年遅れそうですけれども、正式にまだドクターではありませんけれども、もう間もなくスチューデントドクターという称号が、こういった条件を備えていて、こういう範囲の仕事は独立でできますということで、始まるということです。

それから、訪問診療を一般の資格を持っている先生方はあまり大勢行っていく

れません。その一方で、訪問診療がいっぱい増えてきた。そして、その医療費が非常に安いから余計行きたがらない。それをもっと早く教育の場で教えないと、将来もっとひどいことになるということで、訪問診療に実習生をつついていかせなさいということが言われてきています。それを厚労省も受けているということで、本学ではこの方針を掲げておりますので、この方向へ進んでいるわけです。

教育研究目標は、前から言っています五つと三つの力(りょく)です。

これは、例のものですから、もう嫌というほど見られたと思いますが、初め、このブランド力を置いて、学力と教育力、このあたりに集中してたんですけど、だいたいこれが軌道に乗ってきたのでこちらへ行きかけたのですが、また再び学力の向上に戻るべきだと考えております。

もう一つは、国際交流力というものです。受験生の目から見て、この一言で受験しましたという学生が非常に本学には増えてきました。私立大学では、国際交流を最も盛んにやっているのは大阪歯科大学であるということがだいぶ定着してきました。それで、小論文の解答を見ている、面接の回答を聞いても、国際交流力はさらに増強すべきであると感じております。

それから、大学院力と研究力、これはもうちょっと行きます。

に本学を受けている場合に、そちらへ抜けてしまうと倍率が下がりますので、それもうちはちょっとハンデであるんですけど、これは致し方ないので、もっとどんだん優秀な歯科医師になるような学生を大勢集めないと、また本学が困ることになります。

それから、進級についてです。1回浪人してしまうと浪人癖というか、留年癖がつくというか、ズルズルとなくなって、その人が将来6年後に国家試験には通る、1年生のときに留年しますと、6年生を超えて国家試験を受けたときに、いくら後で勉強しても、基礎ができてないということで、そういう人ばかりを集めたさる大学の合格率は50%を切るそうです。1回留年しますと非常に歯科医師になりにくいという全体の教育体制になっておりますので、何とでも留年させないような目標を果たさないといけない。

また、それを厚労省でも言っていますが、学生ばかり責めないで、先生方もちょっと勉強してもらわないといけません。昔のような、ただ行って、それで難しい試験を出して、理解しようがなからうが、それで落ちたら再試験を1回も2回もやる。こういう古いタイプの教師には猛省を図ってもらって、やっぱり教え方の工夫というか、教員のほうの努力も必要だということで、最低、ファカルティ・ディベロップメントという教育力のコース、これを今できるだけ大勢受講してもらっています。今のところ自分の意思でやっている程度ですので、これをもっとどんだん教員評価の中に入れていべきだという声が高まってまいりました。

それから、留学用の英会話についてですが、皆、国際交流の熱が高まってきました、やっぱり一度は短期でも留学したいということになります。それから、向こうへちょっと見学だけでも短期で行きたいというときに、やっぱりTOEICやTOEFLといった点数がないと海外の有名な先進国の大学は見学もさせてくれないということになってきておりますので、国家試験の失敗のない優秀な大学のクラスには、やっぱりTOEICとか

**2a)教育研究目標**

「**五つの力**」  
「**三つの力**」

「**八策**」

**【実践目標—五つの力】**

- 一、入試倍率—向上体制
- 一、確実な進級を果たす
- 一、教え方の工夫へ教員努力
- 一、初年次からの人間性教育
- 一、優れた教員人材を養成

**【実践目標—三つの力】**

- 一、卒業留学用の英会話習得
- 一、大学院生への経済的・支援
- 一、研究・論文業績の量的増強

平成28年度強化目標

**【五つの力の目標】**

- 一、**募集ブランド力の向上**
- 一、**学力の向上**
- 一、**教育力の向上**
- 一、**人間性涵養力への注力**
- 一、**教員人材育成力への注力**

**【三つの力の追加目標】**

- 一、**学生の国際交流力増強**
- 一、**大学院力の増強**
- 一、**研究力の向上**

※平成27年度強化目標

少し実践目標ということで、入試倍率は2.いくつ、過去3年のうち2年以上が2倍以上になっていないといけません。本学はやっと3年の間に1年だけ、昨年だけ入試倍率が上がりました。さっき言ったように2.95倍にまで上がりましたので、なんとか今年は3倍になってくれれば非常にいいなと思います。医学部を受験する人が同時

TOEFLの受験資格のための授業をつくらないといけないという感じがしています。

大学院生が、非常にそういう意味で、研究も、それから教育、ティーチング・アシスタントとかいう形ででも教育にも非常に関与してくれますので、やっぱりその人たちの経済的な支援など、いろいろな保証をもう少しつけてやらないと、大学院へ行って、どういうテーマを持つかが描けません。ただ教授になりたい人は行ったほうがいいと思うんですけどもという程度になってくるから、やっぱり大学院生をもっと集めないと、これは将来の教員人材を簡単に育成できないという感じになりそうであります。この点についているんな支援体制を施すべきです。今、本学では、2年、自分の費用で先進国へ留学した人は、帰ってきたら籍がなくても有給教員になれるという制度を設けておりますが、それでも、あまり海外へ行ってくれません。主に経済的な理由もあるのかなと思います。

それから、最近、ちょっと研究のほうは、論文業績が非常に少ないというのが、インパクトファクターとか、非常に高度な尺度の論文が尊重される時代でありますけれども、このピンクで書いてあるようなところは、ぜひ少しでも、1本でも2本でも今年中に進めないといけないと考えております。一流の大学になるためにはそういうのが必要かなと思います。

**2b) 大学の3ポリシー**

**アドミッションポリシー**

- 歯科医師として社会に貢献し奉仕する使命感と気概を持つ人
- 専門的知識、技能、態度を修得するために着実に努力する人
- 国際的な視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意のある人

**カリキュラムポリシー**

- 知識、技能および人間性をもった歯科医師の養成を行うカリキュラムを構成しています。
- 学生が意欲をもって学習でき、国家試験への備えとして万全の科目を設けます。
- 学生中心主義に基づき、学生と教職員とのふれあいの場を数多く設置します。
- 患者さんへの思いやりや温かな心をもった歯科医師の育成に必要な教育を行います。

**ディプロマポリシー**

- 専門的知識、技能、態度を修得し、国民の健康的な生活を確保する能力を身につけている。
- 汎用能力および危機管理能力をもち、絶えず研鑽を積み習慣を身につけている。
- 地球規模で新時代の歯科医学と歯科医療を構築する能力を身につけている。

この大学の三つのポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーというのは、入るときはアドミッションというんですね。カリキュラムポリシーというのは在学中のもので、ディプロマポリシーというのは卒業資格のことで、出る場合のもの

です。大学院にもつながるものです。これは詳しく述べるのはやめます。

それでは、本学は今のところどこまでいっているかということを見てみたいと思います。

まず、厚労省が求める事項というのが、今、俄然クローズアップされてきて、昨年まで文科省が非常に口うるさく言ってきました。臨床実習をしない、患者を診なさいと、厚労省が言うのはわかるけれども、文科省がそういうことをものすごく言い出しました。

**歯科医師の需給をめぐる最近の議論**

- 1986(S61).7 厚労省「H7を目途に最小限20%削減すべき」
- 1987(S62).9 文部省「H7に20%程度に抑制すべき」最終まとめ
- 1998(H10).5 厚労省「新規参入をさらに10%程度抑制すべき」報告
- 1999(H11).2 文部省「医師、歯科医師の入学定員をさらに削減する必要」
- 2006(H18).8 文科省、厚労省の各大臣、「確認書」合意、「国試合格基準上げ」
- 2006(H18).12 厚労省「削減率20% + 8%程度の早期実現を」
- 2008(H20).5 厚労省「文科省との連携で必要な対策急ぐ」ビジョン
- 2009(H21).3 文科省「入学定員の見直しを検討する」(第1次報告)
- 2015(H27).1 厚労省「歯科医師の需給問題に関する検討会」(第1回)

逆に、この需給問題ですね。歯科医師が多過ぎるということの議論が始まりましたのは、このように、昭和61年、1986年から平成7年をめぐりに最小限20%削減をすべきだといって、厚労省の委員会で一応申し合わせが決まりました。ところが、それが平成7年ぐらいになってもなかなか効果があらわれない。さらに、新規参入を10%程度抑制するというのですから、これは、国立大学には特に30%ぐらいをカットしないといけないという形で平成10年に言ってきました、それから、今度、平成11年には、入学定員をさらに制限する必要がある。これについては詳しくパーセントは言われていません。

**歯学部における入学定員削減状況(国公私立大学)**

	1985年度 (S60)	2014年度 (H26)	削減人数	削減率
国立	860	562	298	34.7%
公立	120	95	25	20.8%
私立	2,400	1,803	597	24.9%
合計	3,380	2,460	920	27.2%

また、平成18年には国家試験を難しくしようという形になり、平成18年、ここ以降は非常に難しくなりまし

た。実際は、19年から実施された分は、だいたい8年か9年前にガッと大きな一つの変化がありました。それから、18年12月には、削減率を28%ぐらいに下さいということになりました。本学は20%までいっているのですから128名です。さらに8%引きますと115名になります。これは全国の17の大学にとりまして非常に授業料を圧迫します。6年間ですから、10億以上の減収になってくるので、経営が大変になってくるというぐらいのものなので、皆、今、20%で何とか頑張っています。

平成20年になりますと、やっぱり厚労省と文科省は連携でやろうという方向に変わってきました。平成21年からは、文科省の入学定員の見直しを検討する第1次報告というのが出されました。これは、国立は35%ぐらい削減したんだから、私立が20%ではちょっと話にならないということで、盛んに私立大学を攻めてきております。私立大学は経営の問題がありますので、そう簡単にはできないということで踏ん張っているというのが現在で、最新の検討は、平成27年、去年の1月、正月、ちょうど1年前に、厚労省から歯科医師の需給問題に関する検討会というのが、もうこれは3回ぐらいいまで行われていますが、今年の3月、平成28年の3月で結論を出すということで、今、それについてやっているのが一番新しいものです。

現在、私立大学を全部合わせると24.9%。これは、ちょっと田舎のほうの大学では定員割れしているところも合わせていますので、実際は20%よりもちょっと上げていますけれども、28%には達していないということです。国立は34.7、35%を達成したといっただけで大きく言っています。九州歯科大学は20.8%でありやっていないということで、合計しても27.2で、もうちょっと減らしてほしいと言われてます。それが厚労省の圧力であります。

さて、文科省への対応ですが、本学もいろいろな認証評価を受けて、もう1年中大わらわでしたけれども、この赤字のところだけは本学はまだ未達成です。

**歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議(提言・要望)**  
平成27年2月24日 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議

1. 診療参加型臨床実習の充実 (未)
2. 多様な歯科医療ニーズ等に対応した養成 (合)
3. 教育活動等に関する情報の公表 (合)
4. 歯学教育認証評価の導入 (合)
5. 平成26年度以降のフォローアップ調査 (ほぼ合)
6. 歯学部入学定員削減 (未)

これも大方できているようで、今年中に開かれる分ではこれが合格になるかもわかりません。それから、入学定員削減についてですが、本学は20%ですから、これは私立歯科大学協会とある程度歩調を合わせながら進んでおりますので、何とも言えない感じです。あとは全部クリアしております。そういう状態が文科省に対する答え、結果であります。

**平成27年度 入学状況及び国家試験結果**

大学名	B. 入学定員削減計画		C. 入学定員(募集定員)変更		D. 入学定員削減率		E. 国家試験合格率		F. 国家試験合格者のうち歯学部での合格率	
	H27年度	H26年度	H27年度	H26年度	H27年度	H26年度	H27年度	H26年度	H27年度	H27年度
大阪歯科大学	200.0	200.0	100.0	100.0	50.0%	50.0%	77.4%	77.4%	33.1%	52.3%
合計	27.2	27.2	86.0%	86.0%	31.2%	31.2%	73.3%	73.3%	28.7%	42.8%

注: H26.5 文部科学省歯学教育調査(H26.7.31)

もう一つ、文科省の通信簿というのがこれでありまして、この星印のついたところは、もう合格したということです。

これは、充足率、毎年定員割れを起こしていないということでは、3年連続で星印がついていますが、これは十分満たしていると思います。

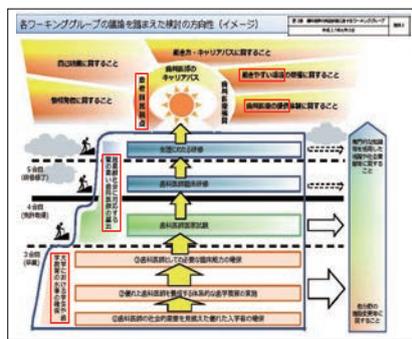
それから、一番よかったのは、競争倍率が2倍を超えたということです。平成25年は1.87倍、次は1.91倍、去年になって初めて2.95倍です。今回、3倍近くになったので初めて星印がつけました。問題はこの星が1個であるという点で、これは少なくとも2個以上つかないと、この部分は不合格が解除されません。今年の入試で2倍以上だったら、堂々とマルになります。

それから、去年一番うれしかったことが現役組の国家試験の合格率です。2年連続、26年度は75.5%、全国平均が73.3%、27年度は本学77.4%、全国平均73.0%ですから、もう超えています。

今年、一番直近の分は非常によかったと考えております。

問題は、今からこの1月に受験する人が全国平均を超えてくれれば非常にうれしいことですが、だんだん問題が難しくなるので、やっぱり一つのハードルは、70%の合格率になったら、まずは全国平均を超えるだろうと言われております。これは、昔は60点以上取ったら科目試験に合格だったのに、70%、70%と言われるようになりました。法科大学院も、大学を通すかどうかの基準も70%の司法試験の合格率でないと許さないということを法務省が決めたらしいです。医科も歯科も70%時代に突入していますから、おのずと遊んでいると6年間ですぐ過ぎてしまいます。

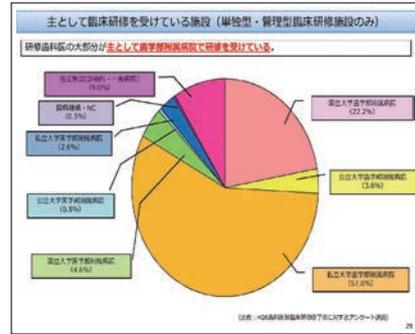
**歯科医師需給問題を取り巻く状況**



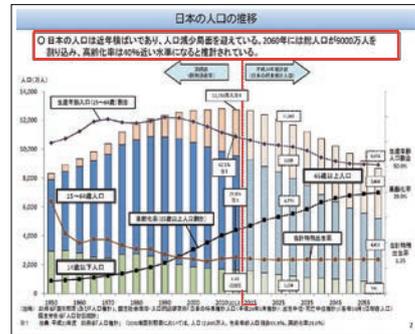
次に問題となるのが、歯科医師の需給問題です。これは、私も委員でありますので、平たく言えば、どれくらい入学定員を減らしてくれるかということのせめぎ合いみたいな検討会です。

このキャリアパスでは、ここで卒業する、6年間はこういうふうにして、ここで歯科医師国家試験を通して、それから歯科医師の臨床研修を経ます。これを1年間やって、それから生涯研修をして、それからもう自由に羽ばたいてくれという、ここまで国が育てたら、もうあとは自分の実力でいくらでも偉くなってほ

しいと。非常に努力した歯科医師は、ここではバラ色、太陽がさんさんと輝いているようなキャリアパスを達成できるであろうということです。問題はこの上です。国家試験に合格してから、このあたりに国が介入してくることになります。



次に臨床研修はどこでやっているかということです。私立大学がこの濃い黄色です。薄い黄色は九州歯科大学だけです。この後は、国立大学歯学部の分が小豆色のところ。これの3つの歯学部だけで臨床研修を1年やっているのを合計すると83%の人をそこでトレーニングしているわけですね。国立より私立歯科大学が随分と担っているわけでありませう。



これは日本人の人口推移ということ、ここに縦の線が入って、こっちの薄いのがこれから将来予測であって、この濃いところはこれまでの進んできた状態ですね。一番あれなのは、生産年齢というか、15歳から64歳がどんどん減ってくる。で、これが2016年ですから、ここからどんどんどんどんここまで人口は減ってくる。そして、高齢化率が今度は上がってくる。高齢化率、65歳以上の人口割合がどんどんどんどん上がってくる。これは厳然たるこのカーブでいこうと。この棒グラフは、15歳から64歳という、従来であれば職業を持っている頼もしい層でしたけれども、これ

がだんだん落ち込んでくると、働く人、税金を払ってくれる人がどんどん少なくなってきた、それで負担増、高齢化率が増えてくるというものであります。日本人の人口は近年横ばいであり、人口減少局面を超えて、2060年には人口が9,000万人を割り込んで減ってくる、高齢化率が40%近い水準になると年寄りばかりになってくるという図であります。



これも、65歳以上が1つの診療所で36%もの人口比率になってきていると。本当に年寄りばかり診ないといけない。これは、歯科診療所の受診患者の3人に1人以上が65歳のお年寄りの患者ばかりになってくる。開業医さんの状況がこうなってくる。

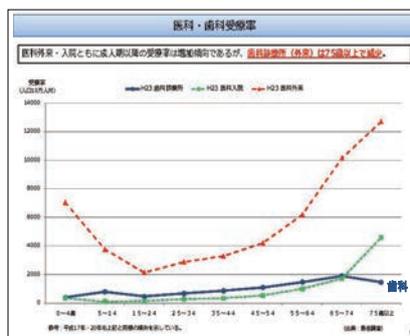


これはまた、18歳人口当たりの歯学部の入学定員数ということで、まず、これがどんどん減ってくる。18歳人口が減ってくるということは、歯学部だけじゃなしに、ほかの学部にとっても大変なロスなんですけれども、それがこれだけ下がってきているのに、この濃い色をしている18歳人口当たりの歯学部の定員数は、ちょっと下がっていますけど、あんまり下がっていない。ということになると、もう歯学部に入る人があんまりこっこの人口に残っていないとか、特に質のいい学生が残っていない可能性があるんで、これをもっと減らして

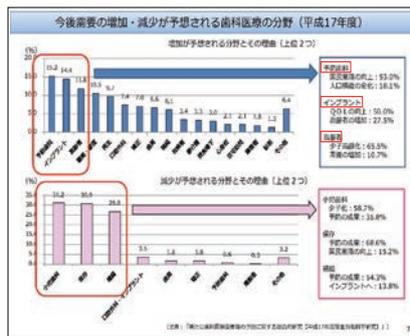
くれというのが先ほどの全部そっちへつながっているんですね。



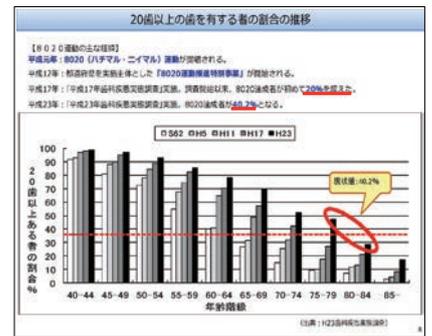
一方、歯科医師数は、こういう星印の節目、45年、50年、53年でグググッと増えました。それから、また大きな節目、平成4年にどんと増えて、平成14年にまたこれが増えて、今、28のところへ来ていて、歯科医がどんどん増えてくるということを言いたげなわけですね。結論はここに書いてあります。



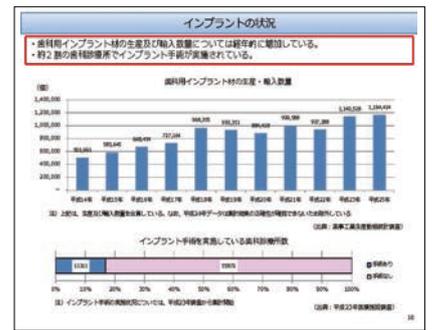
それから、患者さんの内容ですけど、医科のこの赤いのは、平成23年に医科の外來はどんどん増えているんですね。グリーンのところは、平成23年の入院者も医科のほうが増えている。しかし、歯科は、まあまあ65から74歳までの人はまずまずなんです。高齢者に関してのみ歯科がガッと落ち込むという風なこと。後期高齢者ですかね、75歳以上の人の受診率が減っております。施設へ行っている人はおもしろいけど。そういう統計がございます。



それから、今後の需要の増加で、減少が予想される歯科の領域としては、ずっといろいろあるんですけど、予防歯科が一番増える。インプラントは次に多い。それから、高齢者歯科が次に多い。次は審美とか修復歯科が、ちょっとこのベスト3には入っていませんけど、ベスト4に入っていて、予防歯科、インプラント、高齢者が挙げられます。その理由は、二つずつ挙げてあります。自然にしようがない部分があるんですけども、そういうことと減少が予想されるというものと推計しております。

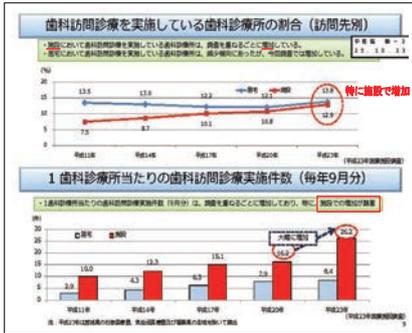


それから、これは20歯以上、8020の達成率ということにしますと、8020が実に20%を超えたのが平成17年だったのが、平成23年には何と40.2%も20本以上あるんですよ。いかに日本人は世界一の長寿国になっているかというのは、歯の数を見てもわかる。20本以上ある人が40%以上もあるということで、今後ますます、また年をとっても20本以上ある人は結構なことだと思います。そういう結果が出ております。

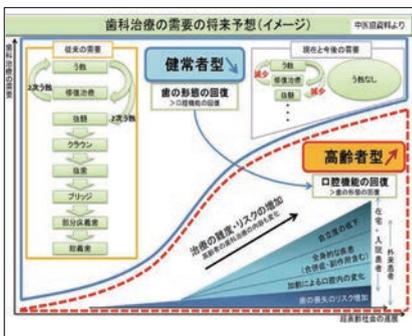


そして次に、インプラントはなぜ増えたかというのを見てみますと、ご覧いただきたいのがインプラントメーカー貿易のほうから比べた需要のグラフです。インプラント材料の生産及び輸入数量ですね。これは経年的に今増加してきているということを示しています。これでイ

インプラントの治療は増えているんだろう、手術もたくさん増えているんだろうということを推計しているわけでありませう。

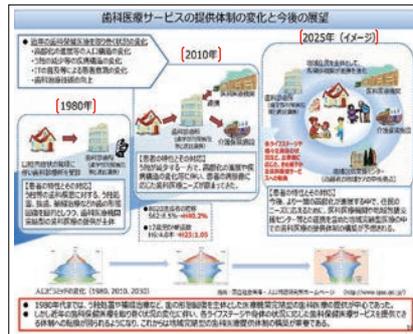


これは、施設で診ている場合と居宅において診ている場合とが、こちらでは差があったんですけども、特にここになりますと、あんまり差がない。平成23年では、特に施設では増加している。それから、これは、こういうふうには22年から23年において大幅に増加しているというか、施設での治療というか。しかし、施設でもまだ十分に入れられない、施設も断られるところもあるようでありませう。



これが、今からの中協協がよく使う、もうどの委員会にも必ずこれが出てくる資料ですけど、将来の治療というのは、う蝕とかがあった場合に、修復して、潰してクラウン入れて、抜歯して、ブリッジ入れて、パーシャル入れて、総義歯と、こういう風なサイクルで悪化していくということです。これを半生かけてやっていくのが、健康者型の歯の形態及び機能の回復という感じなんです。これがだんだん将来的には減ってくる。それに反して、今度は高齢者型というのは、同じようなこういう形であっても、治療のリスクを持った人が増えてくる。すなわち、捻歯があるような人、これを検査とかで

調べないと、抜歯だけではなくて、ほかの処置、ほとんどの処置ができなくなるようなリスクの大きい患者さんが増えてくるということです。場合によっては、連携を保てないと、歯科だけでは治療できない患者が増える。あるいは、いろいろ麻酔の設備とか入院の設備とか、そういうところがないと歯科治療も難しくなるということを物語っているというイメージです。



1980年頃は、個人の歯が悪くなったから、行きつけの歯科診療所と往復していたら、今度は、医科の病院は介護保険施設と連携していかないといけません。そっちへ回される場合は2010年のイラストですね。そして、2025年は、地域だけで全部済むような、その町だけで全部連絡がいくような形になる。2025年のイメージですね。そういう風な流れが人口構造からしてもそうなるだろうと考えております。

### 平成28(2016)年度事業計画

それで、ここからが本学の事業計画であります。

## 事業計画(平成28年度)

- I. 教学(学部教育)の改革
- II. 大学院の改革
- III. 教員人材の整備
- IV. 附属病院の財務改革
- V. 両専門学校の改革

#### I. 教学(学部教育)の改革

まず、教学からです。教学は、1年生から4年生は、これはもう既に言いましたね。新しい科目として、ソーシャル

#### I. 教学-a(第1学年～第4学年)の改革 25年度

1. 入試倍率向上 **2倍以上**にアップ、2年以上必要
2. **IR専従者** : 入試から卒業後までの教学データ蓄積
3. 新カリ4年目 : 留年を減らす教育、低学年から必要
4. 新しい科目
  - ★「ODUソーシャルコミュニティ活動」
  - ★「研究力チャレンジ」「SCRP参加研究」
  - ★「TOEIC, TOEFL 受験授業」
5. CBT合格授業 : 本試合格を70%基準
6. OSCE合格授業: 全員本試合格を目指す

#### ODUソーシャルコミュニティ



コミュニティ活動はもう完全実施に入っておりますので、これは軌道に乗ると思えますね。

そこで、先ほど言ったTOEICとかTOEFLの受験、授業というのも国際交流には必要になってくる。研究力チャレンジとか、SCRPに研究で参加するようなのを増やしていかないと、よくできる学生にはこういうことをやらないと、そのこの学部は魅力がなくなる、そのカリキュラムは魅力がなくなるということになります。

#### I. 教学-b(第5学年, 第6学年, 既卒者)の改革 28年度

1. 第5学年: 「学力向上試験」+進級試験+講義
2. 学士1: 本試合格を目指す
3. **全国模試: 2~3回(一部有料)を受験させる**
4. 学士2: 再試合格(70点以上)が卒業のミニマム要件
5. **第6学年教務委員会を設置(毎月)**  
: 全員の成績分析から卒業資格と国試合格に全力
6. **「既卒者教務委員会」をさらに充実(毎月)**  
: 学費免除、個別指導・相談、定期出席を厳守させる

それから、いろいろな試験は皆70%基準になっている。本試も再試も70%でないと合格しない。そういうふうな改革をしていかないと。これはもう周りの人から大分毎日やっておりますね。欠席したら、またもう一遍どこかで埋め合わせして出席しないと逃げられないという形になっているんですけども。

それから、5年生がやっぱり学力が少し落ちていっているので、何か学力向上試験

たいな試験を増やさないと対応できないかなと、国家試験に影響するんじゃないかなということと、全国模擬試験をもっとたくさん受けさせるという形ですね。

それから、6学年の教務部委員会を毎月設置して、これはきめ細かくそれぞれ指導教授のもとにやっておりますので、この方向でよからうと。で、既卒者教務部委員会をさらに充実しないと、なかなかこちらが無料にしても来てくれないですね。しかし、受験しますと言っていて足を引っ張って、受験して、不合格になると合格率が下がる、そういうことになるので、要は、ここをどうするかというのがかなり年々重い足かせになってくるのではないかと。

## II. 大学院の改革

28年度

1. 大学院生の入学倍増—基礎系優遇策、臨床系新コース
2. 教員、TAの増強—専任教授、准教授からも任用
3. 新設専攻科の拡大—研究者コース、社会人コース、留学生コースetc
4. 外国人院生・入学受入れ→「優秀論文、特別優秀論文に対する表彰・特典」
5. 大学院修士課程の設置申請続行

### II. 大学院の改革

大学院には、とにかく大学院の量的整備をもっとやらないといけない。大学院生が一人もいないという講座のないように、やっぱり何としてでも魅力をつかって、そこに教える先生がいるんだから、それを誘い込まないといけないのではないかと。それから、外国へ行く。それから、修士課程の申請も引き続き続行する。

## III. 教員人材の整備

28年度

1. 教員評価—本格実施  
「新授業評価表」 → ・優れた教員の発掘—教員力  
・OBT、学生1・2コマする授業  
・習字ささいな授業力に改善
2. 優れた大学教授の選出—H29年度に主任教授4名、H30年度に6名が役員
3. 優れた専任教授・大学院教授→新規任用を拡大する。
4. 大学院生・ポストクの海外留学支援 →帰国後教員任用
5. 優れた教育アドバイザー(教員)→任用を拡大する

### III. 教員人材の整備

それから、教員人材ですね。これは昨年と同じ方針で今後も取り組みます。ただ、この授業評価をさらに、また教員評

価をさらにしっかりと固めていかないといけないのではないかと、来年、再来年と主任教授が大勢定年退職をされますので、優れた大学教授を選出する使命がございます。専任教授も、新しいところで教育の必要となったところへは、そういう人を公募して選任していかないといけないということですね。

## IV. 附属病院の財務改革

28年度

1. 各診療科毎の延べ患者数を2割増加:月次
2. 全科の診療時間を1時間延長
3. 各科毎の収支改善: 経費見直し、月次
4. 臨床実習→診療参加型→早急に転換、「自験」を全診療科で実施。
5. 病院運営貢献者への顕彰・報奨

### IV. 附属病院の財務改革

附属病院は、診療科ごとの延べ患者数を一応は2割ぐらい毎月増加していくと思います。例えば、3月期を基準として、その2割、その2割という風にする。そして、最終的な集計は、患者増は、1日のうちの延べの来院患者数を、新館も延べも含めたものを集計されるわけですね。それには、ゆくゆくはできるだけ早い時期に全科の診療時間を1時間延長しないといけないだろうということになってくると思います。もう東京の大学はほとんど1時間延長しておりますね。それから、臨床実習は、この自験というものを早く協力者会議の不合格から解放されないといけないということ、努力しないといけない。

## V. 両専門学校の改革

28年度

- 歯科技工士専門学校
  - ・4年制大学への移行を申請 →「医療保健学部 口腔工学科」
- 歯科衛生士専門学校
  - ・4年制大学への移行を申請 →「医療保健学部 口腔保健学科」

### V. 両専門学校の改革

最後に、両専門学校をどういう風に将来するかといったときに、このまま専門学校のまま置いておくと、先の展望がな

かなか見えないので、だんだん学生が減ってくるだけで、近い将来クローズしないといけなくなるのは見えていますので、早く、今ならまだ短大か4年制大学へ行けるんですけど、短大はあまり3年でしたら意味がないんじゃないかということで、4年制大学、残されたパイはこれしかない。これだと、これを潰さなくても移行で済むので。また、いろんなものを活用できますから、費用的にもほとんどかからないというメリットがいっぱいあります。それで、あまり近畿地区にたくさんできてくると、事実上のまた競争になってきまして、もう認可もおりなくなるので、今ならここ1年のことだと思います。2年、来年になるとわかりません。



それで、今年も大吉を引くことができました。ということで、今年の大吉も1番で、「あさみどり 澄み渡りたる 大空の 広きをおのが 心ともがな」ということで、こういう意味だそうであります。

ちょっと駆け足で少しわかりにくいところがあったかと思いますが、長時間にわたりまして聞いていただきまして、誠にありがとうございました。これをもちまして、きょうのプレゼンは終わりたいと思います。

## || 平成 28 年度 事業計画

### はじめに

本学は、明治 44(1911)年の開学以来、建学の精神である「博愛」と「公益」に溢れる優秀な歯科医師の養成、国民の歯および口腔の健康の向上並びに歯科医療の充実を図ることを目指して、教育・研究・臨床の各部門で不断の努力を行ってきた。

平成 26 年度に本学は、大学基準協会認証評価と、文部科学省歯学教育認証評価トライアルという二つの大学評価を同時並行的に受審するという貴重な経験をした。この中で、本学の質向上への重要な指摘事項(※)がなされ、これらを漸次改善改革していくことで、平成 27 年度には定期的・継続的な自己点検・評価体制を再構築できた。

今回の平成 28 年度事業計画を策定するにあたり、上記の指摘事項の全てを今後改善していくことで、「八つの力」の目標達成に向けて、教育、研究、臨床の発展充実、経営の効率化を目指すこととした。

平成 28 年度の事業は、大学学部については、教学改革として前年度に引き続き全学年を通じたきめ細かい教育の充実を推進することとする。特に、平成 27 年度に採択された「文部科学省私立大学等改革総合支援事業」のタイプ 1「教育の質的転換(建学の精神を生かした大学教育の質向上への取り組み)」と、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」による教育環境の整備により、学生に対するアクティブラーニングを推進していく。また、歯科医師国家試験の合格率を向上させるための学習支援を強化し、一方で学生の学習態度の確立及びオナーズ教育(科目名:「現代教養」)の展開、FD を頻繁に行うことで、教員の資質向上を図り一層教育の充実を目指すとともに、海外提携大学との学生・教員の国際交流の活性化を図る。

大学院歯学研究科については、基礎系大学院生優遇策、臨床系コース新設などの検討を継続して行っていく。

附属病院については、大学附属病院ならではの患者のニーズに合った高度で先進的な歯科医療の提供を行うことで延べ患者数の増加を目指すとともに、臨床研修施設として歯科医師の資質向上に貢献していく。

歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校については、それぞれ「医療保健学部口腔工学科」、「医療保健学部口腔保健学科」として 4 年制大学への改組転換を図る。

このように、平成 28 年度は、本学固有の特色を生かし上記の計画を着実に達成していくことで、法人全体の経営基盤の一層の強化を図り、さらなる教育・研究・臨床部門のレベルアップに繋げていき、名実共に私立歯科医学総合学園としての基盤をより強固なものとしていくものである。

※大学基準協会認証評価にかかる指摘事項については、本学

ホームページ「大学について > 自己点検・評価 > 大阪歯科大学に対する大学評価結果および認証評価結果」の項目を参照のこと。

### ■平成 28 年度事業計画■

平成 28 年度の事業として次の項目を掲げ、着実に実行していくものである。

#### I . 大学学部の改革

1. 教学 -a (第 1 学年 ~ 第 4 学年) の改革
2. 教学 -b (第 5 学年、第 6 学年、既卒者) の改革
3. 教学関係規程の見直し
4. 研究に関すること
5. 国際交流に関すること
6. 社会連携・社会貢献・広報活動に関すること

#### II . 大学院の改革

#### III . 教員人材の整備

#### IV . 附属病院の財務改革

#### V . 歯科技工士・歯科衛生士 両専門学校の改革

#### VI . キャンパス施設・設備の整備

#### VII . 法人・大学の管理運営

### I . 大学学部の改革

本学は、教育基本法の規定する教育の一般的な目的と方針とに則り、歯学に関する学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の領野における学理技術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的としている。この目的達成のために、平成 28 年度は教学支援の増強(教務部委員会委員の増員)を行い万全の体制を整える。

#### 1. 教学 -a (第 1 学年 ~ 第 4 学年) の改革

##### (1) 学生の受け入れ

- ・学生の受け入れ方針(アドミッションポリシー)に基づき、優秀な学生を確保すべく、平成 29 年度入試(平成 28 年度実施)では、入学試験会場として新たな地方試験場を設けることとする。
- ・一般入試(前期・後期日程)における大学入試センター利用入試を継続導入する。
- ・平成 27 年度に入学初年度にかかる学費を免除する成績優秀者特待生入学制度を見直し、規定化した。これにより優秀な新入生の確保を図っていく。
- ・本学の魅力を受験生にアピールし、受験に繋がる積極的な広報活動を推進していく。(本学ホームページによる入試関連情報の発信、オープンキャンパス、受験相談会の開催、高校・予備校での本学教員による出張講義、学校訪問等)

## (2) IR (Institutional Research) 室と教学部門等との連携

教学部門及び歯科医学教育開発室等との連携を一層強化し、入学段階から卒業までの学生の実態や学習効果を検証する体制を充実していく。

## (3) 学生の教育について

- ・6年間の教育課程を通じて、学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づいて低年次から学力レベルの向上（留年者の減少）へ取り組んでいく。
- ・教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）である「人間性を具えた歯科医師の養成を行う」べく特色ある授業科目の展開を行っていく。
- ・本学が重視している態度教育科目として、平成28年度から第1学年次に「現代教養」を新設し、学習態度の確立やオナーズ教育を行う。
- ・「ODU ソーシャルコミュニティ」は、第1学年から第4学年までの全ての学生が参加する継続事業であり、規則正しい生活習慣を身につけさせる。
- ・「文部科学省私立大学等改革総合支援事業」と「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」で獲得した「アクティブラーニングのためのクリッカー等の整備」により、学生の主体性を引き出すための教育を行う。
- ・「研究チャレンジ」は、昨年度と同様第3学年に担当し、学生の研究力の向上を目指す。
- ・「SCRIP 参加研究」、「TOEIC、TOEFL 受験授業」の開講も検討していく。
- ・高い進級率を達成することを目指すとともに、第4学年次に行われる共用試験（CBT、OSCE）の高位合格率を目標にした対応を行う。
- ・自習室の利用状況を常にモニタリングし、学生の学習環境の改善に努めていく。
- ・学修の手引き（シラバス）、学生生活ハンドブック等の学生指導指針の更新を行い、学生に対してその活用を促していく。
- ・薬物乱用防止、女性被害防止に関する講演会を企画し、安全な学生生活を過ごすうえで必要な知識の啓発を図っていく。
- ・近年、精神面に対する支援体制が必須となっていることから、学生相談室カウンセラーを楠葉・天満橋両学舎に配属し、年間を通して個別面談を行っているが、学生助育の観点から学生部と一層緊密な連携を図っていく。
- ・障害者差別解消法が施行されたことを受け、すでに本学では「障がいのある学生の修学等の支援に関する指針」が制定されているが、漸次支援体制の整備を行っていく。

## 2. 教学 -b (第5学年～第6学年、既卒者) の改革

### (1) 第5学年への教育

- ・臨床実習の成績と臨床知識試験（年5回）と臨床講義、臨床実習終了時試験の実施により学力の向上を目指していく。
- ・臨床実習について、全診療科での「自験」を実施する。

### (2) 第6学年への教育

学士試験1本試験全員合格と、本学指定の特別試験受験義務化により、歯科医師国家試験の高位の合格率を目指していく。

### (3) 既卒者への対応

既卒者教務部委員会により既卒者のモチベーションを向上させる指導を継続する。（個別指導・相談の徹底、相談会への定期出席を厳守させる。）

## 3. 教学関係規程の見直し

学生への学修指導を徹底するため、大学学則、学業成績評価に関する規程等に関して見直しを行う。

## 4. 研究に関すること

- ・科学研究費補助金をはじめ各種競争的外部資金の獲得件数を高めるよう研究活動の活性化を図る。
- ・研究倫理については、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に沿った取り組みを行い、研究者の倫理観を向上させる。
- ・コロンビア大学100周年インプラントセミナー（主催：コロンビア大学）の後援を行い、同大学との学術交流を活性化させる。

## 5. 国際交流に関すること

グローバル大学として、学術交流協定締結校との事業を継続して行い、一層の充実を図る。また、科学技術振興機構の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」の実施申請を行い、アジア地域と日本の科学技術の発展に寄与する。

## 6. 社会連携・社会貢献・広報活動

- ・枚方市の学園都市ひらかた推進協議会事業、健康医療都市ひらかたコンソーシアム事業に積極的に参加し、地域連携を推進する。
- ・本学公開講座の内容を充実させ、市民の健康（健口）づくりに貢献する。
- ・本学の魅力をアピールするため、ホームページ、広報誌（ODUNews）の内容の充実を図る。

## II . 大学院の改革

本学大学院歯学研究科は、大学院生に歯学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与するとともに、大学院生を当該専攻分野に関する高度の研究指導者に養成することを目的としている。

### 1. 大学院生の入学倍増への取り組み

- ・基礎系を専攻する学生への優遇策（授業料等の減免）
- ・臨床系の新専攻科目の開設などを検討する。

- ・ 社会人大学院生の受け入れを促進する。
- ・ 外国人留学生の受け入れを促進する。
- ・ 大学院生・ポストドクトラルフェローの海外留学を支援する。
- ・ 大学院生の優秀論文表彰制度の継続実施
- ・ 研究科ホームページの充実による広報

## 2. 学則等の改正による教育研究活動の活性化

学則等諸規程の改正により、大学院の研究指導体制を整備し組織的な教育ができるように改善する。

## 3. 新設専攻科の設置

研究者コース、社会人コース、留学生（海外への留学に向けて）コースなどの新しい専攻科の設置を検討する。

## 4. 大学院修士課程の設置

継続して設置申請に向けて準備を行っていく。

## 5. 大学院教員の増強

平成 24 年度から研究指導力のある専任教授を新専攻科目の大学院准教授に登用し、大学院准教授による院生募集を始めた。講座外大学教員にも任用枠を拡充するなど大学院教員の増強を図っていく。

## 6. ポストドクトラルフェロー事業

大学院博士課程修了者のうち 2 名の枠を設け、研究活動の継続及び後継者養成のため本学大学院に採用する。

## 7. ティーチングアシスタント事業

前年度から 3 名増員の 15 名の枠を設けることで、学部学生に対する教育補助業務を行う。

## 8. 学術研究奨励助成金

大学院生に対して若手研究者育成のために研究助成を行う。

## 9. 学術研究奨励資金事業及び若手研究者奨励金事業

日本私立学校振興・共済事業団事業で、研究計画を学内公募のうえ選考し、事業団へ申請する制度を積極的に活用する。

## 10. 海外研究発表助成事業

大学院博士課程第 3・4 学年を対象に、海外で行われる学会でのファーストオーサーで研究発表を行う場合に研修費として助成する。

## III . 教員人材の整備

### 1. 教員評価の本格実施

「新授業評価表」による優れた教員の発掘で教員力を高める。アクティブラーニングなどを取り入れた授業を行う人材を育成するための FD 研修会を頻繁に実施する。

## 2. 人材の登用

- ・ 平成 29 年度には主任教授 4 名が欠員となるため、教授職の選考を開始する。
- ・ 大学院修了者・ポストドクトラルフェローへ海外留学を推奨し、本学の「海外留学経験者の特別採用に関する規程」に基づき帰国後に教員任用を図っていく。
- ・ 教育アドバイザーとして意欲ある教員を積極的に登用していく。
- ・ 客員教授、Visiting Professor、Honorary Visiting Professor による講義や、平成 28 年 4 月から新たに委嘱する特任教授により特色ある教育の展開を促していく。

## IV . 附属病院の財務改革

本学附属病院は、本学大学学則の第 1 条の目的に則り、患者診療を通じて歯科医学の教育研究を達成するとともに、地域社会に貢献することを目的としている。このことを踏まえ、地域における患者ニーズに合った良質な歯科診療を行うとともに、臨床研修施設として歯科医師の養成と資質向上に取り組んでいる。平成 28 年度においては、引き続き附属病院の機能を一層充実させる取り組みを推進し、経営効率の一層の向上を図り、次の事項の実現を目指す。

- ・ 17 診療科毎の延べ患者数（月次）の 2 割増加策を推進する。
- ・ 診療時間の 1 時間延長を検討し、早期に実現を目指す。
- ・ 診療科毎の収支改善と経費の見直し（月次）を行っていく。
- ・ 教授特別診療室において、熟練の臨床教授による診療を開始する。

[以上、重点課題]

- ・ 病院運営貢献者への顕彰・報奨の導入を検討する。
- ・ 先進的な歯科治療を提供する役割を発揮するため、地域医療機関からの受け入れを円滑に進める。
- ・ 訪問歯科診療（国家公務員共済組合連合会大手前病院）、MRI 特殊検査（関西医科大学天満橋総合クリニック）の継続実施
- ・ 地域の診療所への支援として、CT、MRI、歯科用 CT、検体検査及び病理組織検査を継続実施していく。
- ・ 歯科医師派遣（沖縄県、阪神福祉事業センター診療所、日本放送協会大阪放送局）の継続実施
- ・ 土曜診療（小児歯科・矯正歯科）の継続実施
- ・ 患者への説明責任、医療倫理の遵守とその徹底を行う。
- ・ 歯学部附属病院医療事故防止相互チェックへの参画
- ・ 医療安全に関する講習会により、医療人としての職業意識の向上を図る。
- ・ 病院情報システムの活用による医療サービスの一層の質的向上を図る。
- ・ 臨床研修施設として、優秀な歯科医師を養成する機能を充実させる。
- ・ 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受けるべく基盤整備を行う。

・省エネルギー対策を徹底し、エネルギー使用量と経費の抑制、削減を図る。

## V. 歯科技工士・歯科衛生士 両専門学校の改革

歯科技工士専門学校は、歯科技工士として必要な知識と技術を修得せしめると共に、更に高度な技術の向上を図ること、また、歯科衛生士専門学校は、歯科衛生士として必要な知識と技術を修得せしめると共に教養の向上を図ることを目的として、今日に至っている。

本学の建学の精神を基調に、両校の教育実績を踏まえ、平成29年4月、両校を改組転換して、医療保健学部口腔工学科と医療保健学部口腔保健学科の1学部2学科（4年制）を牧野キャンパスに設置計画中である。

計画のアウトラインは以下のとおりであるが、今後変更が生じる場合がある。

・学部名称

<医療保健学部>

目的: 広く医療の観点から、社会福祉、地域訪問看護ならびに医療コミュニケーションを通じて、人間性豊かな歯科医療に携わる医療人の養成を行い口腔の健康に大きく寄与することを目的とする。

・学科名称

<口腔工学科>

目的: 従来の歯科技工だけでなくデジタル加工技術に優れ、医療と介護にも豊富な知識を持って現場に出る、超高齢社会に必要とされる歯科技工士を養成する。

<口腔保健学科>

目的: 従来の歯科予防措置、歯科診療補助、歯科保健指導に加えて、口腔機能リハビリテーションや、介護にも高い専門性を有する歯科衛生士を養成する。

・教育課程の編成の考え方及び特色

①医療人としての素養の形成、歯科の基礎的な知識の獲得、歯科臨床の知識の獲得、歯科臨床の技能の獲得、実践能力の獲得、教育内容の整理と知識と技能の固定化を体系的に行う。

②医療人としての素養の養成、口腔リハビリテーションや訪問歯科診療などの高齢化に応じた知識と技能の獲得に重点を置く。

③学部の取得資格としては、歯科技工士、歯科衛生士とともに、意欲ある学生に対して社会福祉士資格の取得ができるコースを置く。

・学部拠点は、牧野学舎とし、既存校舎改修及び設備の更新等の環境整備を行うことで経費の抑制を図る。

・医療保健学部の学生定員

①口腔工学科 収容定員 120名（1学年定員 30名）

②口腔保健学科 収容定員 280名（1学年定員 70名）

③学部定員合計 400名（1学年定員 100名）

・学納金 初年度 125万円 2年次以降 105万円（4年間総額 440万円）

## VI キャンパス施設・設備の整備

平成28年度における施設・設備の整備予定（抜粋）は、次のとおりである。

### 【楠葉学舎】

- ・第4実習室実習用顕微鏡の段階的更新（25年度から計画的に更新）
- ・第7、8実習室歯科技工用モーターの取替
- ・第8実習室技工機のTVモニター更新
- ・第5大講義室AV機器システム交換
- ・廃水処理施設整備工事
- ・中央歯学研究所における研究用機器備品の拡充

### 【牧野学舎】

- ・クラブ部室整備工事
- ・新学部の校舎改修及び設備の更新等の環境整備

### 【天満橋学舎】

- ・ガス吸収式冷温水発生機オーバーホール
- ・附属病院本館13階病棟空調及び集中制御新設工事
- ・マルチカラーレーザー光凝固装置更新
- ・パノラマX線撮影装置更新
- ・チェアーユニット更新
- ・電動リモートコントロールベッド更新
- ・輸血用検査機器一式更新
- ・新病院情報システム保守

## VII. 法人・大学の管理運営

本法人は、教育基本法及び学校教育法に則り、歯科医学に関する学術の理論及び応用を教授し、併せて人格を陶冶し国家社会のために有用な人材の養成を目的としている。この目的の達成のため、法人・大学の運営を効率的に行っていく必要がある。平成28年度においても、経費を削減・抑制し、業務の改善に努力していく。

・徹底した経費の削減・抑制を図り、財務体質を一層磐石なものとしていくことを目指す。

・教職員の資質を高めるための研修会を行っていく他、ハラスメントに関する講演会等の人権意識高揚に向けた取り組みを行う。

・事務職員の知識修得のためのSD（スタッフディベロップメ

ント)を実施し、業務内容の変化に即応できる人材の育成を図っていく。

・教職員の省エネルギーへの意識を高める啓発活動を組織的に  
 行い、エネルギー使用量と経費の節減の実績を上げるよう努力して  
 いく。

## || 平成 28 年度 大阪歯科大学 学術研究奨励助成金 (大学院生)

課題番号	氏名	専攻	学年	研究課題	助成額 (円)
16-01	古澤 一範	歯科保存学	4	各種知覚過敏抑制材の漂白に対する影響について	220,000
16-02	野口 正皓	歯周病学	3	最終糖化産物 (AGEs) がラット大腿骨由来間葉系細胞に与える影響について	220,000
16-03	中田 貴也	歯周病学	4	歯周組織の慢性炎症状態である歯周病における新たな治療ターゲットとして 11 $\beta$ -HSD1 の役割について及びメタボリックシンドロームとの関連	220,000
16-04	山脇 勲	歯周病学	4	ナノレベル表面構造制御チタン金属表面における硬組織分化誘導に及ぼすグルコース濃度の影響	220,000
16-05	堤 義文	有歯補綴咬合学	4	実験的咬合干渉が唾液タンパク質に及ぼす影響	300,000
16-06	福本 貴宏	有歯補綴咬合学	4	格闘技の攻撃運動時に認められる顎口腔機能と全身機能との相関	220,000
16-07	藤尾 美穂	欠損歯列補綴咬合学	3	純チタン金属板に析出させたナノ構造化表面への加熱処理がインプラント埋入周囲組織に与える影響について	220,000
16-08	細山有規子	歯科矯正学	4	Gallotannin は NFATc1 の発現を抑制し破骨細胞分化を負に制御する	220,000
16-09	邱 秀慧	小児歯科学	4	新規アパタイトアイオノマーセメントの特性に与えるハイドロキシアパタイトの影響に関する基礎的研究	220,000
16-10	邱 思瑜	小児歯科学	4	新規アパタイトアイオノマーセメントの口腔内細菌に対する抗菌性に関する研究	220,000
16-11	覚道 知樹	歯科麻酔学	3	マウス脳梗塞モデルにおける脱分化脂肪細胞移植による中枢神経再生	220,000
計 11 件					2,500,000

## || 寄贈

下記の通り寄贈を受けました。心より感謝いたします。

- 大阪歯科大学第 64 回卒業生 | 卒業を記念して | 天満橋学舎南館 1 階ゼミ室 自習用品一式 (机・椅子 10 脚)  
 (平成 28 年 3 月 11 日)
- 諏訪文彦 名誉教授 | ヒト成人頭蓋骨、ヒト小児下顎骨 (混合歯列)、小児下顎骨 (混合歯列)、ヒト胎児頭蓋骨、ヒト心臓冠状動脈鋳型標本 計 10 個  
 | 各種動物 頭蓋骨等 計 20 件  
 (平成 28 年 3 月 24 日)  
 | 教育研究用として | 1,000,000 円也  
 (平成 28 年 4 月 4 日)

## || 人事

### 専任教授任用

歯科医学教育開発室 専任教授 西川 哲成  
H.28.1.1 付

### 特別昇任

体育学教室 教授 長家 秀博  
高齢者歯科学講座 准教授 樋口 裕一  
以上 H.28.3.31 付

### 大学院教員任用

大学院教授 田村 功  
三宅 達郎  
以上 H.28.2.1 付

### 職員採用

附属病院 看護師 成松那津美  
附属病院 看護師 昌本江里子  
以上 H.28.2.1 付

### 定年退職

口腔外科学第二講座 主任教授 覚道 健治  
体育学教室 教授 長家 秀博  
歯科技工士専門学校 教員 鈴木 寛  
教務学生課楠葉担当 事務職員 原 美津恵  
中央歯学研究所 課長補佐 堀 英明  
大阪歯科学会事務局 主任 中司 裕子  
附属病院 歯科技工士 齋藤 俊文  
附属病院 歯科技工士 武森 政文  
以上 H.28.3.31 付

### 依願退職

附属病院 看護師 山田 真代  
H.28.1.1 付  
附属病院 歯科衛生士 近重 美香  
附属病院 看護師 仲谷 亜紀  
以上 H.28.2.29 付  
高齢者歯科学講座 准教授 樋口 裕一  
生化学講座 講師 合田 征司  
口腔インプラント学講座 講師 上村 直也  
小児歯科学講座 講師 大東 希好  
歯科保存学講座 助教 宮地 秀彦  
歯周病学講座 助教 民上 良将  
口腔インプラント科 病院助教 高橋 貫之  
大学庶務課記念館事務室 事務職員 山田 裕  
附属病院 看護師 新谷 弘子  
坂口 清子  
以上 H.28.3.31 付

## || あとがき

今号の Topics では本学とセレッソ大阪スポーツクラブの連携研究協定の締結を掲載いたしました。この締結会見に同行させていただいたので、補足情報・裏話をご紹介します。

この相互協力は、2020年に東京でオリンピック開催が決定したことにより、社会全体のスポーツに対する関心が高まっていることを背景に、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブと大阪歯科大学が共同で、口腔環境とフィジカルパフォーマンスとの関連を明らかにすることを目的に行われます。

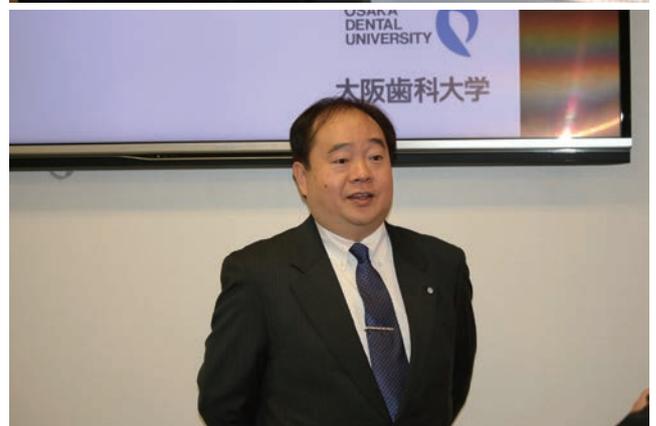
具体的には、以下の五つを主な内容としています。

1. 歯科医学・医療に基づくサッカー選手の育成に関する共同研究および事業
2. 歯科医学・医療によるサッカー界への貢献
3. 本共同研究の活動における相互の指導者、講師等の交流
4. サッカー全般に関する情報の収集および交換
5. その他サッカーの振興をはじめとする地域の活性化に寄与する事項の推進

締結後には、セレッソ大阪スポーツクラブ 1F のクラブフラッグ前での記念撮影や、エントランスに飾られた、プレゼントツリーを行った団体・個人のプレートを眺めながら、川添理事長・学長と宮本代表理事による歓談も行われるなど、親交を深めていました。

そして、その後、会見場では、ケーブルテレビのニュース番組による、歯科保存学講座 吉川 一志 准教授へのインタビューが行われました。取材では、今回の連携研究協定が提携されたきっかけや、期待される役割、本学が果たす責務などについて、

わかりやすく話されていました。



---

大阪歯科大学広報 第 176 号

2016.01.01 ~ 2016.03.31

発行日 平成 28 年 6 月 30 日  
編集発行 大阪歯科大学広報委員会  
〒 573-1121  
枚方市楠葉花園町 8-1  
TEL 072-864-3111

---